

文部科学省委託事業

令和7年度

よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業

報告集



青森県道徳教育推進協議会

「考え議論する道徳」への歩みを更に(発刊に寄せて)

青森県道徳教育推進協議会

会長 目 時 聖 児

昨年の9月25日、「論点整理(素案)」が公表され、学習指導要領の改訂に向けた動きがスタートしました。道徳教育についても、1回目のワーキンググループ会議が11月25日に開催されています。

ワーキンググループの資料には、「『考え、議論する道徳』への転換へのフェーズから、『考え、議論する道徳』の実装のフェーズに移行する」との記載があります。転換を更に進めつつ、「考え、議論する道徳」を具現化するための手法や方式を整える、ということになるのでしょうか。正に、目指す歩みを更に続けるということなのでしょう。

また、青森県においては、道徳教育の充実が学校教育指導の重点の一つとされています。本県の子どもたちが豊かな心をもてるようにするために、道徳教育の充実が重要であることは、疑う余地もありません。更に、冒頭に述べた中央省庁の動きからすれば、道徳教育の要である道徳科の充実が不可欠であることは、言を俟たないでしょう。道徳教育並びに道徳科の充実に資するという意味において、「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」の持つ役割は、非常に大きいと感じているところです。

今年度は、東北町立上北小学校及び上北中学校がこの事業の委託を受け、研究を進めてくださいました。上北小学校では、「課題を自分事として捉え、考えを深める児童の育成～特別の教科 道徳の授業実践を通して～」を研究主題とし、特に授業の展開部における発問や意見交流の工夫に焦点化して、授業づくりに取り組みました。加えて、道徳参観日の実施による保護者や地域との連携、異年齢交流を軸とした特別活動との関連付けを図り、授業のみならず道徳教育の充実にも意を用いながら、研究を深めました。

上北中学校では、「基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、主体的に学ぶ生徒の育成～学びの自覚化を促す取組の工夫を通して～」を研究主題に、授業1単位時間の終末部や、学期ごとの授業の総括など、様々なスパンで生徒自身が自分の学びを振り返ることに重点を置きつつ、研究を進めました。更に、振り返りの実践は学校行事や各学期の個人目標にも生かされ、道徳科を軸とした取組が教科・領域を越えて波及するという、カリキュラム・マネジメントに関わる取組の充実にもつながっています。

本事業の報告集をお届けするに当たり、両校の素晴らしい研究実践が共有され、各校の道徳教育並びに道徳科の充実に資するものとなれば、幸甚に存じます。

結びに、本事業の根幹である研究実践に御尽力された上北小学校及び上北中学校教職員の皆様、本事業の推進に当たって御支援いただきました県教育庁上北教育事務所、中部上北広域事業組合教育委員会、東北町教育委員会はじめ関係各位の皆様に、改めて感謝申し上げますとともに、タイトルのとおり、「考え、議論する道徳」を目指す歩みが、留まることなく更に続いていくようお祈り申し上げ、発刊の挨拶とさせていただきます。

挨拶

青森県教育庁

学校教育課長 下山 敦史

道徳教育については、平成27年の学習指導要領の一部改訂により、それまでの「道徳の時間」を「特別の教科 道徳」として位置づけてから10年が経過しました。国は学習指導要領改訂に向けて、教育課程部会道徳ワーキンググループで道徳教育に関する現状と課題をまとめています。その中で、児童生徒の学習意欲の高まりや教師の意識の高まりなど、道徳教育の「量的確保」「質的な転換」について一定の成果が見られたとしながらも、一方で「考え、議論する道徳」への質的転換は道半ばであると述べています。小・中学校においては、道徳科の特質や目標を踏まえ、「考え、議論する道徳」の質的充実と「主体的・対話的で深い学び」の視点から、引き続き授業改善を図っていく必要があります。さらに、いじめ、不登校、自殺の件数が過去最高であることや、闇バイトなどの社会問題、デジタル技術の発展に伴う新たな道徳的課題等の現代的諸課題が指摘されており、小・中学校、高等学校を見通したとき、自己を見つめ、生き方についての考えを深める道徳教育は、今後一層重要になってくるものと推測されます。

県教育委員会では、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもつことができるよう、道徳教育の充実を学校教育指導の方針と重点の一つに掲げ、地区道徳教育研究協議会や県総合学校教育センターでの研修など、道徳教育推進のための取組を進めています。また、文部科学省委託事業「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」の中で、道徳教育推進協議会の協力を頂き、研究指定校による特色ある道徳教育の実践、道徳教育パワーアップ協議会の開催等に取り組んで参りました。

今年度は、東北町教育委員会及び中部上北広域事業組合教育委員会の御協力の下、東北町立上北小学校及び上北中学校が研究指定校として研究に取り組みられました。両校とも、道徳教育を推進する指導体制の整備・充実、道徳科における多様で効果的な指導方法の改善・充実、家庭・地域との連携による道徳教育の取組など、各校の実態に合わせた創意工夫を生かし、学習指導要領の趣旨に沿った道徳教育の充実に向けて、実践を通じた研究が行われました。

両校の研究は、道徳教育パワーアップ協議会において全県に向けて発信され、その成果を広く共有することができました。本報告集は、両校の取組の成果等をまとめたものですが、県内全ての学校において、児童生徒の豊かな心の育成のために有効に活用され、各校における教育活動全体を通じた道徳教育の充実に役立つことを願っております。

最後に、本報告集の作成に当たり、日々の教育実践を積み重ね、大きな研究成果を挙げられた両校と、御協力いただいた東北町教育委員会及び中部上北広域事業組合教育委員会、県道徳教育推進協議会会長である平内町立平内中学校校長目時聖児先生及び副会長である青森市立泉川小学校校長原子雄治先生をはじめとする協議会委員の皆様には感謝申し上げます。発刊の挨拶といたします。

も く じ

○発刊によせて 青森県道徳教育推進協議会 会長 目 時 聖 児

○挨拶 青森県教育庁 学校教育課長 下 山 敦 史

○東北町立上北小学校

よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業完了報告書

- 1 道徳教育に関する取組状況の概要…………… 1
- 2 実施した研究内容…………… 2
- 3 実施経過とその体制…………… 1 2
- 4 取組の成果と課題…………… 1 3

学習指導案

- 第5学年2組…………… 1 5
- 第3学年1組…………… 1 7
- 第6学年3組…………… 2 0
- 第1学年2組…………… 2 2

資料

- 道徳教育全体計画…………… 2 4

○東北町立上北中学校

よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業完了報告書

- 1 道徳教育に関する改善状況の概要…………… 2 5
- 2 実施した研究内容…………… 2 6
- 3 実施経過とその体制…………… 3 4
- 4 取組の成果と課題…………… 3 5

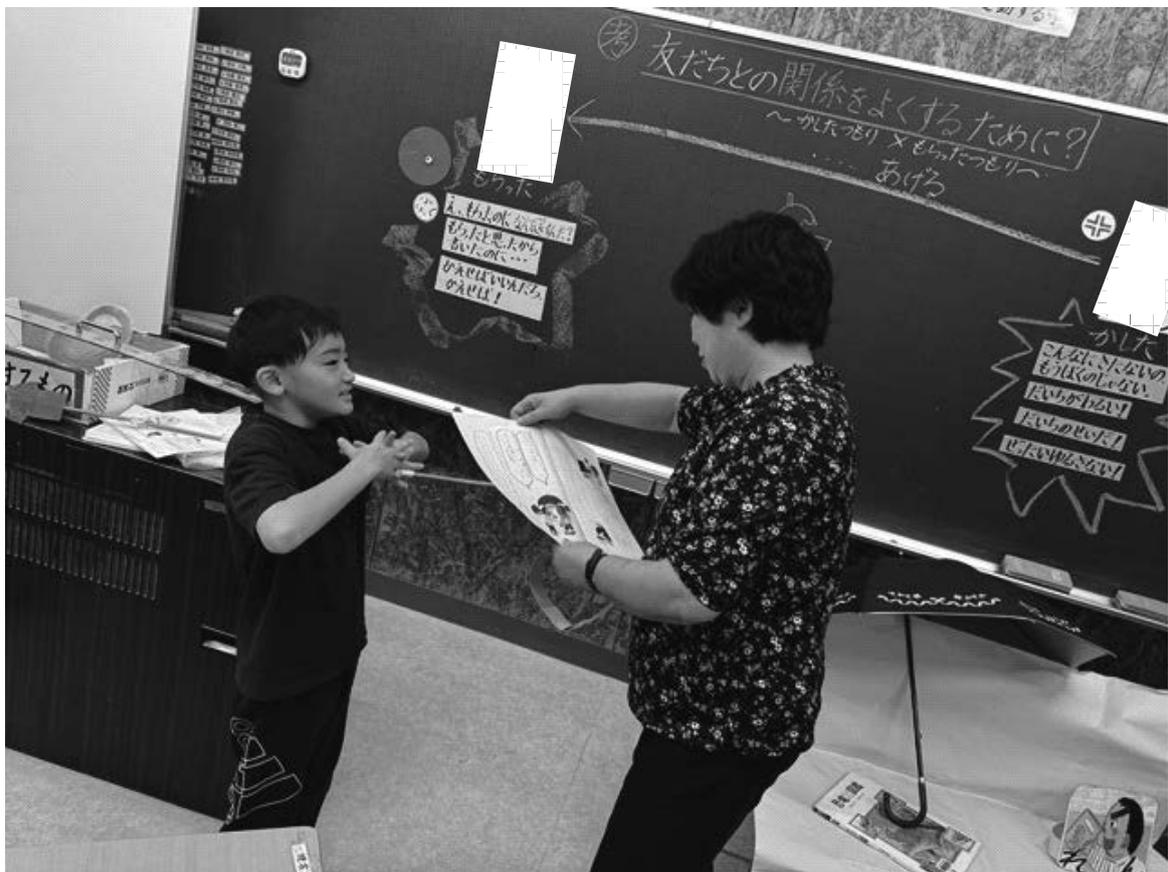
学習指導案

- 第2学年2組…………… 4 1

資料

- 資料1…………… 4 6
- 資料2…………… 4 7
- 資料3…………… 4 8
- 道徳教育全体計画…………… 4 9

東北町立上北小学校



よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業

完了報告書

(東北町立上北小学校)

1 道徳教育に関する取組状況の概要

昨年度の校内研究より、本校児童は自分の考えを伝えることに苦手意識があるが、協働的な学習であれば自分の考えを伝えることができるということが明らかとなった。また、授業場面においては、「生徒指導に多くの時間を要している。配慮が必要な児童や自力解決が難しい児童が多く、一斉授業が成立しづらい。」などの教職員の困り感もある。

そこで、本校の目指す学校像を「学び合い、高め合う学び舎」と設定し、「児童一人一人が落ち着いて学習できる学校づくり」と「児童にやさしく、熱意をもって教育活動を実践する教職員のいる学校づくり」を目指してきた。また、この学校像を受け、目指す児童像として「意欲的に学習に取り組むことができる児童」、「考えをもつ・考えを表現することができる児童」、「次の課題解決やよりよい自分につなげることができる児童」、「運動の楽しさや喜びを味わいながら、課題に向かうことができる児童」の4つを設定した。このような、学校像・児童像の実現のため、「一人一人の実態に即した特別支援教育の充実（授業のユニバーサルデザイン化）」、「積極的・計画的な研修の推進・教職員としての専門性の向上（検証授業の実施・県外研修への参加）」、「地域教育の有効活用（道徳参観日の実施・地域の人やものとの関わりのある学習）」という3つの具体的取組を計画・実施した。研究方法及び内容については、以下のとおりである。

(1) 研究の方法

- 課題を自分事として捉え、考えを深めるための教師による発問の工夫や意見交流の工夫
 - A 日常の授業での仮説検証（道徳コーナー・道徳参観日）
 - B 仮説検証に向けた授業公開や日常の授業における情報交換・共通理解の場（校内研修）
 - C 特別の教科 道徳において身に付けた判断力や心情を生かす機会を教科横断的に設け、全教育活動において、実践意欲と態度を育成する場（学校・学年行事や委員会活動、縦割り活動）

(2) 研究の推進状況

- A 道徳コーナーは、子どもたちが道徳的価値に関する掲示物に興味をもつためのものとして有効であり、授業者である教職員も各行事との関連を意識して教材選び・授業実践ができた。また、道徳参観日は、保護者にとって自分の子どものよさや成長に気付くとともに、他の子どもの多様な考えに触れる機会となった。
- B 校内研究における仮説検証授業では、児童を揺さぶる発問や役割演技の有効性が明らかとなった。また、校内研修では、教職員と児童、保護者の共通理解事項を設けたことで、子どもたち一人一人が落ち着いて学習できる環境づくりができた。一方で、定期的な見直しが必要との課題も見られた。
- C 学校の教育活動と特別の教科 道徳の授業を関連させたことで、児童の道徳性を育むという意識が高まったり、地域・保護者との連携に深まりが生まれたりした。一方で、授業時数や職員・児童の負担軽減の観点から、行事を精選する必要があるとの課題も挙げられた。

2 実施した研究内容

(1) 研究方法

【研究目標】

児童が課題を自分事として捉え、考えを深めるためには、意見交流時における発問や意見交流の方法を工夫することが有効であることを、特別の教科 道徳の授業実践を通して明らかにする。

【研究主題】

課題を自分事として捉え、考えを深める児童の育成 ～特別の教科 道徳の授業実践を通して～

【研究仮説】

特別の教科 道徳の授業において、意見交流時における発問や意見交流の方法を工夫することで課題を自分事として捉え、考えを深める児童が育つだろう。

上に記した研究主題及び研究仮説に基づいて、以下A～Cの実践の取組を行った。

(2) 研究内容

A 日常の授業での仮説検証（道徳コーナー・道徳参観日）

①道徳コーナー

ア 目的

全校児童に、月ごとの行事と道徳の内容項目を関連させながら価値について考えさせる。

イ 方法

- ・新年度の会議で、道徳教育推進教師が〔新年度共通理解事項〕の提案を行い、職員で共通理解を図る。

昨年度の反省では、自分から感想を書く子が少なく、一部の学年だけが感想を掲示した形になりました。先生方に呼びかけてもらっても、自分から書く子はほとんどいませんでした。（数名書いてくれました。）

そこで、全校の子どもたちが少しでも考えるきっかけを作るために、先生方の負担をできるだけ減らし、以下の計画で道徳コーナーを充実させていくことにします。

★今月のテーマに合わせた内容項目の道徳の授業の感想の割り当てをします。感想用紙を封筒に入れて配付します。

★事前に掲示する時期をみて、授業で書いた感想を、道徳担当へ提出します。時期よりも早いと助かります。（全員でも、5～6人でも学年にお任せします。提出された全員分をこちらで掲示します。）

★道徳教育推進教師が中心となり、コーナーをみて、子どもたちがメッセージを書きたくなるように掲示版をかざります。子どもたちがその月や行事に合わせて、テーマについて感じた気持ちをさらに用紙に書いて、交流し合えるように、感想用紙を用意します。

新年度共通理解事項

- ・1年間を通して、「月別道徳テーマ」のような日程で内容項目と関連のある教材の授業を行い、児童の感想等を活用して道徳コーナーを作成する。

時期	学校行事等	テーマ	内容項目	担当学年
4月	入学式・新任式 交通安全教室	気持ちのよい あいさつ	礼儀	
5月	運動会準備 運動会 田植え	めあてに むかって	努力・勤勉	5年 (4月末メ)
6月～ 7月	体力テスト 宿泊学習 修学旅行 夏休み 未来のための健康会	きまりを守って	規則の尊重	3年 (5月末メ)
8月～ 9月	水泳学習 東北町秋祭り	命のかがやき (いのちの授業 の感想など)	生命尊重	4年 (9月末メ)
10月	マラソン記録会 種別リ体験 音楽交歓会	相手の気持ちを 考えて	思いやり 親切	1年 (7月末メ)
11月	町内展 避難訓練	大すき上北小学校 (学級じまん・ 学校じまん)	愛校心	2年 (10月末メ)
12月～ 1月	餅つき会 冬休み 新年、新学期 避難訓練	はたらくよろこび	勤 労	6年 (11月末メ)
2月～ 3月	児童総会 6年生を送る会 卒業式 修了式・離任式	感謝の気持ちをも って	感謝・尊敬	5・6年 (1月末メ)

月別道徳テーマ



道徳コーナーの掲示物

ウ 成果と課題

- ◎子どもたちが、興味をもって掲示物を見ていた。
- ◎授業者が、各行事との関連を意識して、教材を選び授業実践することができた。

②道徳参観日

ア 目的

学校と家庭との連携を図るきっかけ、保護者に自分の子どものよさや成長に気付くとともに、他の子どもの多様な考えに触れる機会をつくる。

イ 方法

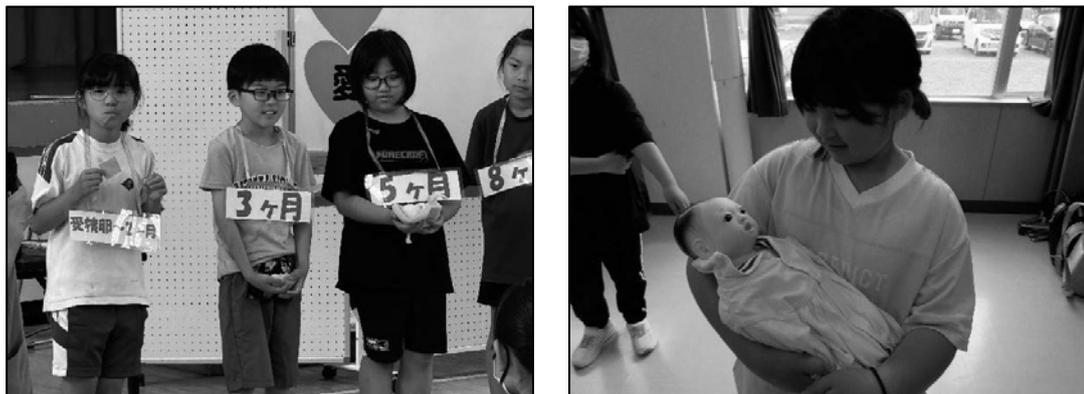
昨年度は、全校一斉で実施していたが、今年度は学年で統一して実施した方がよいとの意見から、参観日の4回のうち、1回を学年で決めて特別の教科 道徳の授業を実施した。(新年度共通理解事項) なお、今年度はアンケートを実施せず、学級通信等で家庭との連携を深めることとした。

3. 全校道徳参観日の実施 (参観日4回中の1回の教科を「道徳」にする)

- ・学年で、いつの参観日に実施するのか決める。
 - ・4年生は、いのちの授業が2回目にあるので、それ以外に道徳をやるかどうか学年で決める。
- ☆学校としては、学校と家庭との連携を密に図るきっかけとする。
- ☆保護者には、自分の子どものよさや成長に気付くとともに、他の子どもの多様な考えに触れる機会とする。
- ☆道徳参観日の授業についての感想を保護者に書いてもらい、保護者や児童の感想を生かして、学級通信などで発信して家庭との連携を深める。
- ・困ったこと(展開・教材選びなど)がありましたら、声をかけてください。道徳教育推進教師が一緒に考えます。

ウ 成果と課題

◎保護者の方に参観してもらうことで、自分の子どものよさや成長に気付くとともに、他の子どもの多様な考えに触れる機会をつくることができた。



4年生道徳参観日「いのちの授業」

B 仮説検証に向けた授業公開や日常の授業における情報交換・共通理解の場（校内研修）

①校内研究

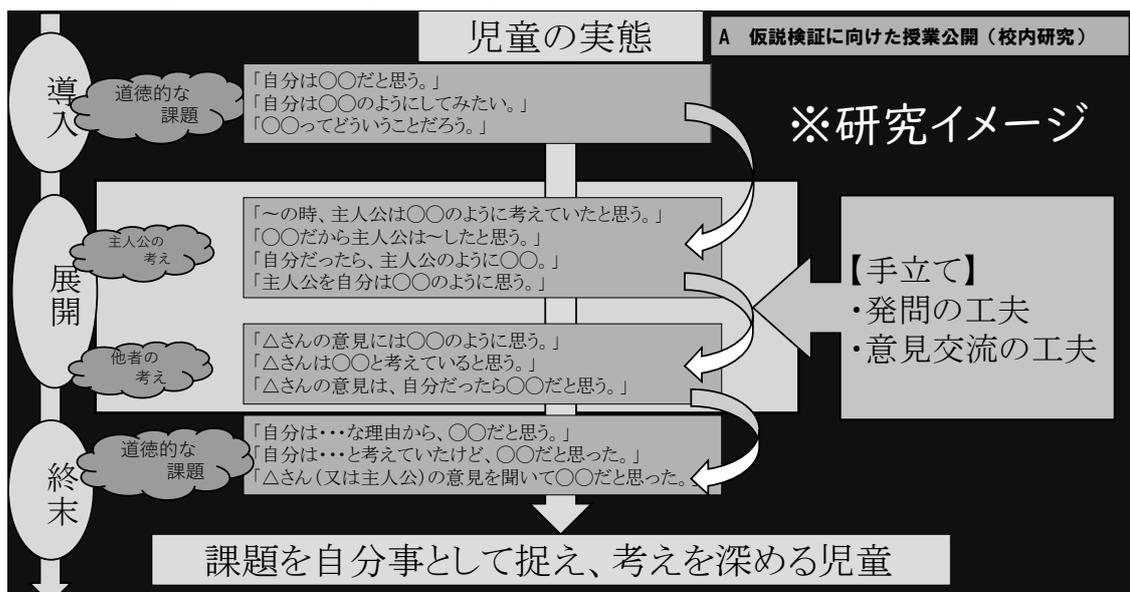
ア 研究の構想

課題を自分事として捉え、考えを深める児童の育成～特別の教科 道徳の授業実践を通して～
「課題を自分事として捉え」とは

…道徳的な課題に対して、自分との関わりで捉え、主体的に学習に取り組むこと

「考えを深める」とは

…道徳的な課題に対して、教材文による登場人物の考えや、対話により他者の考えに触れることを通して、多面的・多角的に思考・判断すること



上北小学校 校内研修（究）計画 研究構想図

このような研究の構想のもと、仮説検証に向けた授業公開を行った。検証計画及び日程・内容は以下のとおりである。

イ 検証計画

- ・児童へのアンケート（道徳性の変容の分析）
- ・B E I N G（道徳教育アセスメント）の事前・事後の実施による変容分析
- ・授業における児童の変容分析
- ・学校関係者へのアンケート
- ・公開授業等によるアンケート結果や協議

(ア) 仮説検証授業（前半）

日 時 令和7年6月18日（水）

対 象 5年2組

授業者 木村 直哉

助言者 野辺地町立野辺地小学校 校長 坂本 和康 氏

主題名 友情を深める

（B 主として人との関わりに関すること 10 友情、信頼）

教材名 心のレシーブ（出典：新しい道徳5 東京書籍）

[成果と課題]

- ・事前アンケートの実施と活用

◎問題意識をもって、本時の課題について考えることができた。

△アンケートと本時のテーマを結び付ける言葉がけが必要であった。

- ・構造的な板書の工夫

◎自分の立場や思考の流れが分かりやすかった。

△中心・外側の動きもあるとよかった。

- ・発問の立ち位置の4区分と問い返し

◎児童の反応が促されていた。

△思考を揺さぶる発問や問い返し（投影的・批判的な発問）もあれば更に深まった。



資料

資料



資料

資料

資料

資料

5年2組 授業の様子

(イ) 仮説検証授業（後半）

日 時 令和7年10月22日（水）

対 象 3年1組

授業者 大鹿 由紀子

助言者 上北教育事務所 指導主事 丸井 大輔 氏

主題名 お互いの思いを分かり合う

（B 主として人との関わりに関すること 11 相互理解、寛容）

教材名 かしたつもり×もらったつもり（出典：新しい道徳3 東京書籍）

[成果と課題]

・発問と問い返しの工夫

△問い返しは吟味する必要がある。

△アンケートの言葉を分かりやすくした方がよかった。

・意見交流の工夫

◎役割演技後に、見ていた児童に感想を聞くことで、道徳性の違いに気付くことができた。

◎心情図が登場人物の心の中を視覚的に表し、意見交流が活発になった。



3年1組 授業の様子

日 時 令和7年10月22日（水）

対 象 6年3組

授業者 中原 由利子

助言者 野辺地町立野辺地小学校 校長 坂本 和康 氏

主題名 誠実とは

（A 主として自分自身に関すること 2 正直、誠実）

教材名 手品師（出典：新しい道徳6 東京書籍）

[成果と課題]

・発問と問い返しの工夫

◎児童を揺さぶる発問や問い返しが、授業の深まりにつながった。

△振り返りに何を書けばよいのか分からなかった児童がいた。

・意見交流の工夫

◎ペアでの意見交流により、価値観の違いに気付くことができた。



6年3組 授業の様子

日 時 令和7年10月27日(月)
 対 象 1年2組
 授業者 千葉 真美
 助言者 中部上北広域事業組合教育委員会 指導主事 角田 将三 氏
 主題名 友達を思う心
 (B 主として人との関わりに関すること 10 友情、信頼)
 教材名 二わのことり(出典:新しい道徳1 東京書籍)

[成果と課題]

・発問と問い返しの工夫

◎批判的な発問により、児童の気持ちが揺さぶられ、深まりが生まれた。

・意見交流の工夫

◎役割演技により、お互いが嬉しい気持ちになることに共感できた。

△多面的・多角的な視点で考えると、一方の視点だけでなく、もう一方の視点での役割演技を取り入れるとよかった。



1年2組 授業の様子

②県外研修への参加

仮説検証授業に向け、仮説検証授業者三名を県外研修に派遣した。

ア 令和7年度全国小学校道徳教育研究会 第45回 夏季中央研修講座

・日時 令和7年7月31日(木)

- ・会場 練馬区立関町北小学校
- ・参観授業① 低学年部会
模擬授業 「黄色いベンチ」(主題名：みんながつかうものや場所)
参加者 千葉 真美

[成果と課題]

- 導入場面…黒板シアターでの教材提示(深く自我関与させるため)
- 展開場面…役割演技での発表(多面的・多角的な考えを引き出すため)
- 終末場面…説話(教師の体験談ではなく、普段の子どもたちの様子)



1年2組 授業の様子

- ・参観授業② 中学年部会
模擬授業「花さき山」(主題名：美しい心～感動・畏敬の念～)
参加者 大鹿 由紀子
- [成果と課題]
- 「自己の生き方を考える時間」という意識の醸成
道徳の時間を「よりよく生きる上で、自分はどう生きるべきかを考える時間」として意識させていた。
 - 「感動」を共有するしかけ
導入で、「最近感動したこと」を問う。他者の「感動」のとらえ方にも触れることで、自分の価値観を広げ、より深めていくことを目指していた。
 - 個の興味関心にアプローチした学び
授業の後半に「学び深めタイム」を実施。この時間は、「自ら考える」「自ら環境を選ぶ」の二つを重視し、児童の自立性を育むことを目的としている。

イ KTO夏の研修会

- ・日時 令和7年8月11日(月)
- ・会場 筑波大学附属小学校
- ・参観授業
6年生「手品師」(主題名：誠実とは)
参加者 中原 由利子

[成果と課題]

- 導入場面…最初に「きつとうまくいく！仲間って？」と尋ねた。主題にせまるものを直球で子どもたちに問いかけていた。

○展開場面…資料の中身には触れず、教師の範読後に、児童が感想や意見を述べたり、教師の発問に答えたりすることで、授業を進めていた。

○終末場面…導入で尋ねた「きつとうまくいく」について、「うまくいくヒントは見つかった？」と尋ね、導入とのつながりを意識させていた。児童は自分の学級のこととして意見を述べていた。

③校内研修

ア 目的

全ての児童が落ち着いて学習できる授業づくり・環境づくりのため、日常の授業における共通理解事項として、「授業のユニバーサルデザイン化」と「学習用具等の指導」を行った。

イ 方法

新年度の会議で研修部より、下のような内容を提案した。また、〔学習用具等の持ち物についてのお願い〕については、保護者にも配布し、児童・教職員・保護者で一貫した指導を行った。内容については、年度内であっても適宜変更しながら、取り組んだ。

1. 「めあて（課題解決に向けた手立て）」と「まとめ」「振り返り」を意識した授業実践
授業中の「めあて」と「まとめ」「振り返り」を児童が意識できるような発問や板書の工夫を行う。
◎めあて→青、まとめ→赤で統一する。
◎振り返りは、3つの振り返りを授業内容に応じて適宜実施する。
□児童の言葉を生かした「めあて」や「まとめ」「振り返り」になっているか。
2. ユニバーサルデザイン（UD）化を意識した授業の実践
焦点化、視覚化、共有化の視点を取り入れ、全員参加できるようにする。
◎刺激の少ない教室前面掲示に取り組む。（黒板のスクリーン化）
□黒板に授業に必要なものを貼っていないか。（日付等はOK）
3. 全員が意思表示できるような意見交流の工夫（よく聴き、よく考え、訊き合う子どもの育成）
◎ハンドサインの活用（例）

①	グー	⇒	考えが違う	チョキ	⇒	考えをつなぐ、付け足す
②	パー	⇒	考えが同じ	一本指	⇒	質問（内容、意味が分からない時）

◎小集団（ペア、グループ）活動の実施（例）
◎一斉に発言、教え合い、フリートークの実施（例） ◎ICT機器の活用（例）
□意見交流時に全員参加できる工夫がされているか。

令和7年度学力向上の取組としまり

(1) HB以上のとがった長いえんぴつ (5本)
 ×シャープペンシル (筆圧の確保のため)
 ※低学年は、Bまたは2Bを推奨しています。

(2) したじき

(3) 四角くシンプルなデザインのけしごむ
 ×とても小さいもの ×におにつき ×おもちゃタイプ

(4) じょうぎ (10 cm～15 cmくらい)
 ○透明なもの ×伸び縮みするもの ×金属製

(5) 赤ペン・青ペン(赤えんぴつ・青えんぴつ含む)

学習用具等の持ち物についてお願い

①大切に使いましょう。
 →6年間使った後は、1年生のものになります。
 (キーボード、画面、カメラなど)

②先生がいる時に使いましょう。
 →課題や係、委員会などで特別に使いたい場合は先生
 に教えてください。

③使ってもよいアプリ
 「ロイノート」「スマイルネクスト」「デジタルスクールノート」
 「Teams」「Word」「エクセル」「パワーポイント」「電車」
 「ストップウォッチ」

タブレットの使い方についてお願い

[成果と課題]

- ◎子どもたち一人一人が落ち着いて学習できる環境づくりができた。
 - ◎子どもたちの「みんなでルールを守ろう」という意識が高まった。
 - ◎職員・保護者が共通理解をした上で、子どもたちに指導及び声かけをすることができた。
- △学習用具の持ち物やタブレット端末の使い方については、定期的に見直す必要がある。
 △全ての学級で統一し、振り返ることができるような仕組みづくりが必要である。

C 特別の教科 道徳において身に付けた判断力や心情を生かす機会を教科横断的に設け、全教育活動において、実践意欲と態度を育成する場

(学校・学年行事や委員会活動、縦割り活動)

ア 目的

教育活動のねらいに道徳の内容項目を明記し、特別の教科 道徳の授業において身に付けた判断力や心情を他教科や行事等においても生かすことができるようにする。

イ 方法

4月の入学式のねらいには、内容項目の礼儀を明記、5月の運動会のねらいには、内容項目の努力・勤勉といったように、各行事のねらいに道徳科における内容項目を明記し、実施した。

1. 全教育活動の提案のねらいの中に道徳の内容項目を明記すること

☆道徳教育は、全教育活動で行うという指導要領の趣旨から、児童が学習活動の中で、気付いたり、理解したり、実感したり、自覚の期待できそうな道徳的価値を明記する。

- ① 例) 運動会では、高学年 責任、中学年 協力、低学年 努力
- ② 例) 避難訓練では、生命尊重
- ③ 例) 家庭学習では、節度節制

[成果と課題]

- ◎全ての教育活動を通して、児童の道徳性を育むという意識が高まった。
 - ◎地域や保護者と連携して、教育活動を実施することができた。
 - ◎異学年交流を通して、日常の活動では育むことが難しい道徳性を育むことができた。
- △授業時数や職員・児童の負担軽減の観点から、行事を精選する必要がある。



行事との関連の具体例

3 実施経過とその体制

月	取組の内容	備考
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画、別葉、年間指導計画の見直し ・校内研修（究）計画書の共通理解 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳アセスメントの実施・分析① 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・仮説検証授業【前半】（6／18） 5年2組授業 教材名 「心のレシーブ」 内容項目 「友情、信頼」 授業者 木村 直哉 指導・助言 野辺地町立野辺地小学校 校長 坂本 和康 氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・助言者要請
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・県道徳教育推進協議会：研究概要の発表（7／7） ・全国小学校道徳教育研究会への参加（7／31） 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修主任 ・授業者 (低・中2名)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・仮説検証授業【後半】に係る指導案検討会① ・KTO夏の研修会への参加（8／11） 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者（高1名）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・仮説検証授業【後半】に係る指導案検討会② 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・仮説検証授業【後半】（10／22） 3年1組授業 教材名 「かしたつもり×もらったつもり」 内容項目 「友情、信頼」 授業者 大鹿 由紀子 指導・助言 上北教育事務所 指導主事 丸井 大輔 氏 6年3組授業 教材名 「手品師」 内容項目 「正直、誠実」 授業者 中原 由利子 指導・助言 野辺地町立野辺地小学校 校長 坂本 和康 氏 ・仮説検証授業【後半】（10／27） 1年2組授業 教材名 「二わのことり」 内容項目 「友情、信頼」 授業者 千葉 真美 指導・助言 中部上北広域事業組合教育委員会 指導主事 角田 将三 氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・助言者要請 ・助言者要請 ・助言者要請
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳アセスメントの実施・分析② ・取組状況の中間報告（県外研修等を含む）及び確認 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の実施 ・各種アンケート・評価の分析 ・研究の実践報告書作成・確認 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・県道徳教育推進協議会：実践報告（1／13） ・道徳教育パワーアップ協議会：事例発表（1／23） 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修主任 ・研修主任
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・研修のまとめ 	

4 取組の成果と課題

(1) A～Cの取組全体を通して

道徳コーナーや道徳参観日を設定することで、児童や教職員、保護者が道徳的な価値に興味・関心をもつことができた。

仮説検証授業においては、児童を揺さぶる発問（批判的な発問や投影的な発問）が児童一人一人の考えを深めたり、意見交流を活発にしたりするために有効であることが明らかとなった。一方で、導入と振り返りに関連をもたせることで、自分事として考えることにつながり、授業内だけでなく「次の課題解決」や「よりよい自分」につなげたいという実践意欲をいかに高めるかという課題も明らかとなった。

県外研修において、今年度は、授業者三名が指導案検討の前に参加したことで、仮説検証授業に向けた有効な手立てが見つかるという成果が得られた。

また、今年度共通理解事項として設定した「授業のユニバーサルデザイン化」や「持ち物についてのお願い」は、子どもたちのよりよい環境づくりのために、教職員と保護者が足並みを揃え、一貫した指導を行う上で有効な取り組みとなった。

最後に、各行事と道徳的価値を関連付けることが、日常活動では得にくい道徳的価値に気付かせるために有効であった。今後は行事等を精選しながら、道徳教育のより一層の充実を図っていきたい。

(2) 調査から見られる成果と課題

今年度、2回（6月と11月）にわたって実施した「教研式 道徳教育アセスメント BEING」（図書文化）のアンケート結果を分析すると以下のような成果と課題が見られた。

なお、主に分析を行ったのは、児童及び職員の困り感が多かった「振り返る力」と本校の重点項目である「視点B：人との関わりに関すること（親切・思いやり）」と「視点C：社会や集団との関わりに関すること（規則の尊重）」である。

ア アンケート結果（振り返る力）

調査名	道徳教育アセスメントシステム BEING（図書文化社）							
調査項目	道徳性を支える3つの力							
回答項目	振り返る力（自分を見つめることができる力）							
調査対象	種別	1.児童・生徒 2.教職員 3.保護者 4.その他（ ）						
	学年等	1年生・3年生・6年生						
調査時期	第1回（事業開始前）				第2回（事業終了後）			
	令和7年6月				令和7年11月			
回答結果割合等	対象	本校平均（%）	対象	全国平均（%）	対象	本校平均（%）	対象	全国平均（%）
	1年生	3.2	1年生	3.3	1年生	3.4	1年生	3.2
	3年生	2.8	3年生	3	3年生	2.9	3年生	3
結果の考察	6月と11月とを比べると、数値としては、上昇（0.1%～0.2%）している。0.1%～0.2%という上昇率は、ほぼ変わらないと判断した。							
	数値の変化はほぼ見られなかったが、児童・教職員の困り感が多いのが現状である。振り返り時に自分の経験と結び付けたり、成長を自覚させたりするような項目を設定する必要があると考える。							

イ アンケート結果（視点Bに関する場面）

調査名	道徳教育アセスメントシステム BEING(図書文化社)							
調査項目	問題場面における気持ちと行動のバランス							
回答項目	視点Bに関する場面(気持ち=行動)							
調査対象	種別	1.児童・生徒 2.教職員 3.保護者 4.その他()						
	学年等	1年生・3年生・6年生						
調査時期	第1回(事業開始前)				第2回(事業終了後)			
	令和7年6月				令和7年11月			
回答結果割合等	対象	本校平均(%)	対象	全国平均(%)	対象	本校平均(%)	対象	全国平均(%)
	1年生	46	1年生	62	1年生	53	1年生	62
	3年生	64	3年生	67	3年生	60	3年生	67
	6年生	69	6年生	66	6年生	57	6年生	66
結果の考察	・6月と11月とを比べると、1年生では上昇(+7%)しているが、3・6年生では低下している。また、全国平均と比較しても、本校は低い結果となっていた。 ・数値の結果から、トラブルが多くなる中学年以降が、気持ちと行動のバランスを保つことが難しいと考える。道徳の授業を柱として、自他の気持ちを考え、共感的な態度を育む必要があると考える。							

ウ アンケート結果（視点Cに関する場面）

調査名	道徳教育アセスメントシステム BEING(図書文化社)							
調査項目	問題場面における気持ちと行動のバランス							
回答項目	視点Cに関する場面(気持ち=行動)							
調査対象	種別	1.児童・生徒 2.教職員 3.保護者 4.その他()						
	学年等	1年生・3年生・6年生						
調査時期	第1回(事業開始前)				第2回(事業終了後)			
	令和7年6月				令和7年11月			
回答結果割合等	対象	本校平均(%)	対象	全国平均(%)	対象	本校平均(%)	対象	全国平均(%)
	1年生	54	1年生	68	1年生	68	1年生	70
	3年生	48	3年生	60	3年生	52	3年生	60
	6年生	36	6年生	43	6年生	34	6年生	43
結果の考察	・6月と11月とを比べると、1・3年生は上昇しているが、6年生では低下(-2%)している。また、全国平均と比較すると、本校は3・6年生が特に低い結果となっていた。 ・数値の結果から、規範意識の低下が見られる高学年を中心に、ルールや役割などを自分事として捉えさせ、仲間意識を育てて学校の一員としての自覚を高めていく必要があると考える。							

エ アンケート結果の考察

よりよい学校教育を目指して、今後は以下のような取組を行っていきたい。

- ・自己を振り返ることに苦手意識を持つ児童が多いため、自他の生活経験や成長を実感できるよう、意図的な振り返りの時間を設定する。
- ・集団生活における人間関係のトラブルや規範意識の低下が顕著なため、人間関係をよりよくしたり規範意識を向上させたりすることをねらいとして、教科横断的な指導や縦割り活動を設定する。

第5学年2組 特別の教科 道徳 学習指導案

期 日 令和7年6月18日(水) 5校時

場 所 5年2組 教室

対 象 29名(男子15名、女子14名)

指導者 木村 直哉

1 主題名 友情を深める (B 主として人との関わりに関すること 10 友情、信頼)

2 教材名 「心のレシーブ」(「新しい道徳5」東京書籍)

3 校内研究との関わり

(1) 指導内容

本指導内容は、友達関係における基本とすべきことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関する指導項目である。

子供たちにとって友達関係が良好であることは、学校生活の中で最も重要な要素の一つである。しかし、成長に伴い、趣味や傾向を同じくする閉鎖的な仲間集団で生活したり、男女分かれて生活したりすることが多くなる。その中で、対立が生じたり、友達関係で悩んだりして「学校がつまらない」「学校へ行きたくない」などと感じることも今まで以上に増えることが予想される。

そこで、指導に当たっては、学校生活において、気が合う・合わないに限らず、一人一人の相手に対する考え方の違いを理解し、互いのよさを認め合い、協力や助け合う経験を通して、よりよい友達関係や真の友情を築くことができることに気付かせたいと考える。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、学校やクラスが楽しく、互いに信頼できる友達がいると感じている児童の割合が高い。(5月15日実施のQ-Uによるアンケート結果より)

一方で、普段の学校生活の様子から、友達関係や休み時間の過ごし方などが固定化されており、普段あまり関わらないような友達のよさに気付くことができる機会は少ない。また、誘いを断りづらかったり、言うことを聞いてくれるから関わっていたりするなどの力関係で成立しているような友達関係も見られる。

以上の実態から、今関わっている友達を大切にしつつも、普段関わらないような友達についてもよさや新たな一面に気付くような活動を取り入れ、友達関係についての視野を広げていきたいと考える。

(3) 教材分析

本教材は、陽子と仲の良い幸世、そして考えが対立する男子2名(直希と良夫)の4人がソフトバレーボール大会に向けて練習をする場面を描いた資料である。練習中、上手/下手、男子/女子などの異なる立場でトラブルになることは、子供たちにとって共感しやすい内容といえる。

導入では、教材を自分事として考えやすくするために、「友達についてのアンケート」を実施した結果を提示する。困っているのは自分だけではないという気持ちを共通理解し、課題「相手と上手に関わるために」を提示する。展開前半では、4人の登場人物の中から一番気持ちが共感できると思う人の気持ちを考え、立場や関係性によって考え方が異なることに気付かせたい。その後、チームが一つにまとまっていった要因を発問や問い返し、構造的な板書の工夫により考え、議論していくことを通して、「相手との上手な関わり方」についてそれぞれの考えを深めて行きたい。最終的には、7月に学級で実施する「バスケットボール大会」に向けて、よりよい友達関係で臨むことができるような実践としたい。

☆課題を自分事として捉え、考えを深める児童を育成するための手立て☆

(ア) 事前アンケートの実施と活用

課題「相手と上手に関わるために」が、実態として難しいことをアンケート結果から、共通理解した上で課題を提示する。課題を自分事として捉えやすくなるのではないかと考える。

(イ) 構造的な板書の工夫

個人の考えをパズルのピースに記入させる。それを、登場人物ごとに外(心が離れている状態)と中心(心が通っている状態)に貼っていき、視覚的に板書していく。自分が共感している登場人物の考えや気持ちの変化が捉えやすくなるのではないかと考える。

(ウ) 発問の立ち位置の4区分と問い返しの工夫

A「共感的」な発問、B「分析的」な発問、C「投影的」な発問、D「批判的」な発問を発問や問い返しを活用することで、児童の考えを深めることができるのではないかと考える。

4 単元の指導

(1) 本時のねらい

自分が共感できる視点から登場人物の考えや気持ちの変化について、考え、議論することを通して、お互いを理解し合うことの大切さに気づき、互いを尊重し合う人間関係を築いていこうとする心情を育てる。

(2) 展開

	学習活動 (○発問/指示 ・予想される児童の反応)	◎指導上の留意点 ※評価 ☆仮説に関わる手立て
導入 5分	<p>1 学校生活の活動を想起し、本時の課題についての見通しをもつ。</p> <p>○友達についてのアンケート結果です。「たしかに」「わかる」と思ったら、番号に○をつけましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 相手と上手に関わるためには？ </div>	<p>☆事前に実施したアンケートを提示し、課題を自分事として捉えやすくする。(ア)</p>
展開 33分	<p>2 教材文を読んで、話し合う。</p> <p>○チームがうまくいっていなかった時、チームの人たちはどんなことを考えていたでしょうか。</p> <p>【陽子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝ちたい ・男子にちゃんとやってほしい ・あせっている ・うまくなってほしい <p>【幸世】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝ちたい ・男子にちゃんとやってほしい ・陽子のためにがんばりたい <p>【直希】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝ちたい ・良夫がかわいそう ・女子が厳しい ・自分たちも頑張っているのに… ・上から目線がいやだ <p>【良夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝ちたい ・仲良くやりたい ・悔しい ・不安 ・下手でごめん ・迷惑かけそう ・女子が怖い <p>◎チームがよい雰囲気になったのはなぜなのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの気持ちが分かったから ・みんなが目標に向かったから ・相手のために行動したから ・－ (マイナス) が＋ (プラス) の考えになったから 	<p>◎児童のありのままの意見を受け入れ、登場人物ごとに整理しながら板書していく。</p> <p>☆児童の考えを深めるために、発問の立ち位置の4区分や問い返しを活用する。(ウ)</p> <p>☆板書のピース (個人の考え) を動かしたり、矢印で関連付けたり、言葉を補ったりすることで、思考の流れを視覚的に分かりやすくする。(イ)</p>
終末 7分	<p>3 本時の学びを振り返る。</p> <p>○①学んだこと ②上小のみんなへ を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手と上手に関わるためには、相手のことをよく知り、よいところを見つけるとよい。…① ・悪い言葉で相手とけんかになってしまうので、言いすぎたら、後で謝りたい。…① ・みんなが考えていることを聞いて、話し合いたい。…① ・相手と言ひ合いになってしまったら、後で謝ることも大切です。…② ・自分が思っていることを伝える時は、落ち着いて相手に伝えましょう。…② ・友達同士が言い合いになっている時には、お互いの意見を最後まで聞いてあげるといいですよ。…② <p>4 教師の説話</p> <p>○バスケットボール大会に向けてお話があります。</p>	<p>※相手と上手に関わるために自分なりに大切だと思うことを、資料や話し合いを踏まえて考えている。</p> <p style="text-align: right;">【ワークシート】</p> <p>◎本時と実生活が結び付くような説話とする。</p>

第3学年1組 特別の教科 道徳 学習指導案

期 日 令和7年10月22日(水) 4校時

場 所 3年1組 教室

対 象 31名(男子15名、女子16名)

指導者 大鹿 由紀子

1 主題名 お互いの思いをわかり合う(B 主として人との関わりに関すること1 1相互理解、寛容)

2 教材名 「かしたつもり×もらったつもり」(「新しい道徳3」東京書籍)

3 校内研究との関わり

(1) 指導について

本指導内容は、「主として人との関わりに関すること」の内容で、広がりと深まりのある人間関係を築くために、自分の考えを相手に伝えて相互理解を図るとともに、謙虚で広い心をもつことに関する内容項目である。望ましい人間関係を構築するためには、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分と異なる意見について、その背景になるものは何かを考え、傾聴することができるようにすることが必要になる。

指導にあたっては、相手の言葉の裏側にある思いを知り、相手への理解を深め、自分も相手からの理解が得られるように思いを伝える相互理解の大切さに気付かせたいと考える。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、気の合う友達が増え、互いに相手の立場や感じ方、考え方をおおむね理解できるようになり、友達関係をいっそう深めている。一方で、友達に対して、相手の立場や考え方の違いを受け止められず、自分の考えや意見を押し通そうとして感情的になったり、それらの違いから対立が生じたりすることも少なくない。

以上の実態から、許す気持ちが生まれた後の二人の会話を想像させながら、役割演技を取り入れるなどして、よりよい生活をおくるためには、自分の思いや考えを伝えること、誰にでも間違いはあるから広い心で許してあげることの大切さに気づき、相手のことを理解し、自分と異なる考えを大切にすることについて考えさせたい。

(3) 仮説の検証に関わる手立てについて

(ア) 発問と問い返しの工夫

「相手を許せるか・許せないか」主人公を自分に置き換えて考えさせるために、話合いが何人かの子供たちだけのものになってしまったり、子供たちがねらいに向かっていないなど感じられたりしたら、子供たちの発言内容を生かした問い返しをしていくことで、児童の考えを深めて価値項目に迫っていきたいと考える。

(イ) 意見交流の工夫

許す気持ちが生まれた場面の二人の会話を想像させ役割演技を取り入れたり、その後、感想を伝え合ったり、聴き合ったりして全体で共有化を図ることを通して、多面的・多角的な見方・考え方を引き出す。

(ウ) その他

導入では、普段の生活を思い出して、友達を責めなくなったこと、責められて嫌だったこと、友達関係で悩んだことを想起し、事前のアンケートから児童の実態を提示する。視覚的に共有して、自分との関わりで問題意識をもたせ、本時で考えることの見通しをもたせる。

4 単元の指導

(1) 本時のねらい

主人公を自分に置き換えて二人のとった行動や会話を考えることを通して、よりよい生活を送るためには自分の思いや考えを伝えること、誰にでも間違いはあるから広い心で許してあげることの大切さに気づき、相手のことを理解し、自分と異なる考えを大切にしようとする態度を育てる。

(2) 展開

	学習活動 (○発問/指示 ・ 予想される児童の反応)	◎指導上の留意点 ※評価 ☆仮説に関わる手立て
導入 5分	<p>1 本時の学習について考える。 ○相手を責めたくなくなった時がありますか。 どんな時に、相手を責めたくなくなりましたか。 アンケートの結果を見てみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">友だちともっとよい関係になるために？</div>	<p>☆事前アンケート結果を提示。 視覚的に共有して、自分との関わりで問題意識をもたせる。(ウ)</p>
展開 28分	<p>2 教材文を読んで話し合う。 ○お話の内容を確認しながら、二人の気持ちを考えよう。 (れん) ・ 僕の大切な恐竜図鑑なのに、ショックだ。 ・ だいちのせいだ。どうしてくれる。 ・ だいちを絶対許さない。だいちが悪い。 (だいち) ・ えっ。もらったのに、なんで返すんだ？ ・ 返せばいいんだろ、返せば！ ・ 困ったな。もらったと思ったから書いたのに。</p> <p>3 本時のテーマについて考えを深める。 ○もし自分が「れん」だったら、ずぶぬれで走り去っていきだいちを見て、どう思いますか。 ①許さない。(大切なものを汚されて悔しいから 等) ②迷う。(許せない気持ちと優しさを見て心が揺れる) ③許す。(だいちが図鑑を心配してくれたから 等) *あんなに怒られて、本当に許せるの。 *誰が図鑑に傘をさしたと思う？だいちは、どんな思いで図鑑に傘をさしてあげたと思いますか。 *このけんかのきっかけは？ ☆実は、この後、お話の続きでは二人は仲直りできたんだよ。 (*P97れんのとった行動が書かれた続きを読む。)</p> <p>◎二人は、公園に向かいながらどんな話をしたでしょう。 ワークシートに書く。➡ ペアでやってみよう。</p> <p>【れん】 ・ 図鑑に傘をさしてくれてありがとう。 ・ わかったよ。こっちこそ怒りすぎてごめんね。 ・ ずぶぬれになってまで、図鑑を大切にしてくれたんだね。</p> <p>【だいち】 ・ 図鑑をもらったと思って書いてしまって、ごめんね。 ・ 誰でも、まちがえることはあるよね。 ・ 大好きな図鑑がきたなくなって、本当にごめんね。 (*役割演技・感想発表後、板書にまとめる。)</p> <p>◎二人が前よりも良い関係になったのは、なぜでしょう。 ・ 相手の気持ちを考えて、間違いを許してあげたから ・ 自分の思いや考えを伝えたり、相手の話を聞いたりしてお互いの気持ちをわかり合えたから。</p>	<p>◎登場人物とあらすじを押さえてから読む。 ◎「れん」と「だいち」、二人の気持ちを考えながら、れんの気持ちが変わったところまで(～P.96)読む。 ◎けんかになったきっかけと二人の心の中をおさえる。心情図を活用して視覚的に分かりやすくとらえる。 ◎「もし、自分が「れん」だったら、どう思うか。」主人公を自分に置き換えて考えさせる。理由も言わせる。 ☆誰にでも間違いはあるから広い心で許してあげることや相互理解の大切さを気付かせるために、けんかのきっかけや相手の行動の理由などについて問い返しの発問をして価値に迫っていく。(ア)</p> <p>☆許す気持ちが生まれた場面の二人の会話を想像させ役割演技を取り入れたり、その後、感想を伝え合ったり、聴き合ったりして全体で共有化を図る。(イ)</p> <p>◎役割演技は、児童の中から二組程度選び、やってみる。その後、れん・だいち役➡観客の順に感想を聞く。</p> <p>☆役割演技を通して、よりよい友達関係を築くためには自分の考えや思いを相手に伝えることや相手の話を傾聴することの大切さに気付かせる。(イ)</p>
終末 7分	<p>4 今日の学習を振り返る。 ○今日の学習を振り返ります。相手ともっとよい関係をつくるために大切にしていきたいことをまとめましょう。</p> <p>5 教師の説話</p>	<p>※友達とのよりよい関係を築くために、自分なりに大切だと思うことを、振り返って書けている。【ワークシート】 ◎友達と分かり合えた話の紹介</p>

道とくアンケート②

3の() 番 名前_____

★ふだんの学校での生活を思い出して、こたえてください。

①あい手をせめたくなくなった時がありますか? ある ない

* 「ある」と答えた人に聞きます。 どんな時にあい手をせめたくなくなりましたか?

②あい手にせめられて、いやだった時がありますか? ある ない

* 「ある」と答えた人に聞きます、どんな時にそう思いましたか?

③けんかをして、なかなかおりできなくて なやんだことがありますか?

よくある すこしある ない

④友だちとけんかをしていやな気持ちになったけれど、その後、あい手の気持ちがわかって、心がかよい合ったことがある。

ある ない

* 「ある」と答えた人に聞きます。

なぜ、なか直りできたのですか。 どうしたら、なか直りできたのですか。

第6学年3組 特別の教科 道徳 学習指導案

期 日 令和7年10月22日(水) 5校時

場 所 6年3組 教室

対 象 24名(男子14名、女子10名)

指導者 中原 由利子

1 主題名 誠実とは (A 主として自分自身に関すること 2 正直、誠実)

2 教材名 「手品師」(「新しい道徳6」東京書籍)

3 校内研究との関わり

(1) 指導について

本指導内容は、偽りなく真心を込めて、明るい心で楽しく生活することに関する内容項目である。

「誠実」とは、辞書で調べると、「私利私欲を交えず、真心をもって人や物事に対すること」であるという。そのような具体的な行為を継続して行うことが「明るい心で生活する」だけではなく、人を成長させることにもつながる。

そこで、指導に当たっては、自分の考えや思いを偽らないで行動する「自分自身に対する誠実さ」と、自分の考えや思いを偽りなく他者へ伝える「他者への誠実さ」の両方を考えることを通して、誠実に生きることの大切さに気付かせたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、5年生では2クラスだったが、6年生になって3クラスになり、人数的にも環境的にも余裕が生まれた24名である。

しかし、余裕ができたことにより、周りが見えやすくなったことで、過度に友達を攻撃することも見られている。また、周りの人との関係を大切にすあまり、意に反して自分の思いとは異なる行動をしていることも見られる。その他にも、善悪ではなく、損得勘定から行動していることもある。

以上の実態から、誠実さが分かるところを見つけ、誠実さについて話し合うことで、自分の良心に照らして物事を判断し、誠実に生きることのよさに気付くきっかけとすることができると考える。

(3) 仮説の検証に関わる手立てについて

(ア) 発問の工夫

導入では、内容項目について、「誠実とは。」と直球で発問し、本時のねらいに迫る。展開では、男の子との約束を守る誠実さ、大劇場に行つて夢を叶える誠実さ、迷いに迷う誠実さを十分に話し合わせるために問い返しを多く取り入れる。終末では、自己を見つめ、自己の生き方について振り返らせる発問をする。

(イ) 話し合いの工夫

話すことが苦手な児童もいるため、話し合いの充実を図るために、クラス全体、ペア、グループで話し合わせる。また、自分の考えをはっきりさせるために、挙手で意思表示させたりする。中心発問のところで意見をださせるために、ワークシートに書かせる。

(ウ) その他

○事前アンケート

「一人の友達と遊ぶ約束をしていたが、後からいつも遊んでいる友達に遊びに誘われたらどうするか。」というアンケートを実施しておき、導入で結果を提示する。「誠実さ」についてより自分事として捉えやすくなるのではないかと考える。

○板書

「男の子」と「大劇場」を対角に書き、その中央に葛藤を板書する。色分けしたり、枠で囲んだりして分かりやすくする。「誠実さ」を感じたところに「誠実」カードを貼り、道徳的な心も合わせて板書すると、自分の誠実な生き方を振り返るときに参考にしやすいと考える。

4 単元の指導

(1) 本時のねらい

「自分自身に対する誠実さ」と「他者への誠実さ」について考え、話し合うことを通して、どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。

(2) 展開

	学習活動 (○発問/指示 ・予想される児童の反応)	◎指導上の留意点 ※評価 ☆仮説に関わる手立て ㊦発問、問い返し (ア)
導入 5分	<p>1 本時の学習について考える。</p> <p>○「誠実に生きる」とは、どういうことでしょうか。</p> <p>・うそをつかない。 ・正直に生きること。</p> <p>○みなさんにとってアンケートの結果です。誠実さを感じますか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">誠実な心について考えましょう。</div>	<p>☆事前に実施したアンケートを提示し、課題を自分事として捉えやすくする。(ウ)</p>
展開 30分	<p>2 教材文を読んで、話し合う。</p> <p>○お話を読んで、どんなことを思いましたか。</p> <p>・男の子の方に行った手品師はすごい。</p> <p>・大劇場に行けばよかったのに。</p> <p>○手品師は誠実ですか。</p> <p>○手品師から「誠実さ」を感じるのはどこですか。</p> <p>【男の子の方へ行ったところ】</p> <p>・約束を守ったから。</p> <p>・男の子を悲しませたくないから。</p> <p>【大劇場に行くこと】</p> <p>・夢を諦めたくないから。</p> <p>・売れたら暮らしが楽になるから。</p> <p>【大劇場か男の子か迷っているところ】</p> <p>・どちらも大切にしたいから。</p> <p>・自分にうそをつきたくないから。</p> <p>○男の子を選んだ手品師は、どんなことを思っていたのでしょうか。</p> <p>・迷ったけど、こっちに来てやっぱりよかった。</p> <p>・自分の考えは間違っていなかった。</p> <p>3 本時のテーマについて考えを深める。</p> <p>○「誠実な心」とは、どういう心ですか。</p> <p>【男の子の方へ】・約束を大切に守ろうとする心</p> <p>【男の子の方へ】・思いやりの心</p> <p>【大劇場の方へ】・夢を叶えたいと願う心</p> <p>【迷いに迷う】・よりよい自分であろうとする心</p>	<p>◎教材理解を助けるために、登場人物などを確認する。</p> <p>㊦「どうしてそう思うの。」</p> <p>㊦「自分ならどっちに行く？」</p> <p>◎道徳的な心を明らかにさせていくために、誠実だと判断した理由も言わせる。</p> <p>㊦「自分の夢を諦めたの。」</p> <p>㊦「もし本当に大劇場に行っていたらどうなっていたかな。」</p> <p>㊦「どうして迷いに迷っていたの。」</p> <p>㊦「誰に対して誠実なの。」</p> <p>◎迷いに迷っている手品師の誠実さにも着目させる。</p> <p>☆自分の考えをワークシートに書かせてから発表させる。(イ)</p> <p>㊦「本当に後悔していないの。」</p> <p>☆それぞれの「誠実さ」に合った道徳的な心を考えさせて、目立つように板書する。(ウ)</p>
終末 10分	<p>4 本時の学びを振り返る。</p> <p>○お話や友達の考えを通して、自分が考える「誠実な生き方」とはどんな生き方ですか。</p> <p>・自分で決めたことは、最後まであきらめずに取り組むこと。</p> <p>・自分に正直に生きること。</p> <p>・相手を思いやること。</p>	<p>※「誠実に生きる」とは何か、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めている。</p> <p>【ワークシート】</p>

第1学年2組 特別の教科 道徳 学習指導案

期 日 令和7年10月27日(月) 5校時

場 所 1年2組 教室

対 象 30名(男子19名, 女子11名)

指導者 千葉 真美

1 主題名 友達を思う心 (B 主として人との関わりに関すること 10 友情、信頼)

2 教材名 「二わのことり」(「新しい道徳1」東京書籍)

3 校内研究との関わり

(1) 指導について

本指導内容は、小学校1学年及び2学年の内容項目「友達と仲よくし、助け合うこと。」に関するものである。1年生は、幼児期の自己中心性から十分脱しておらず、友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しいことも少なくない。しかし、学級での生活を共にしながら一緒に勉強したり、仲よく遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねることで友達のよさをより強く感じるようになる。

指導に当たっては、特に身近にいる友達と一緒に、仲よく活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。また、友達とけんかしても、友達の気持ちを考え、仲直りできるように、友達と一緒に活動して、楽しかったことや助け合ってよかったことを考えさせながら、友達と仲よくする大切さを育てていくようにする必要がある。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、様々な保育園から入学してきており、当初は、同じ保育園同士で行動することが多かったが、学校生活を送る中で新しい交友関係も芽生えてきている。休み時間は、仲よく遊ぶ姿も見られ、困っている友達に優しい言葉をかけることのできる児童も多い。しかし、自己中心的で自分の思いを強要したり、気の向くまま行動したりしてけんかやトラブルに発展することも少なくない。

以上の実態から本教材を通して、みそさざいの揺れる気持ちや行動に着目させながら、相手のことを思って行動することの大切さに気付かせたい。また、自分のことを振り返りながら友達と仲よくしようとする心情を育てていきたい。

友達を思う心のよさや難しさを考えられるようにするために次のような道徳教育を行った。

【国語科】

「おおきなかぶ」の学習では、グループで音読劇を行い、友達と協力しながら練習に取り組み、友達と役を演じることを楽しんでいた。

【体育科】

ドッジボールでは、同じ人だけがボールを持つことから友達みんなが楽しむにはどうすればいいかを考えさせ、譲ることができる児童が見られた。

(3) 仮説の検証に関わる手立てについて

☆課題を自分事として捉え、考えを深める児童を育成するための手立て☆

(ア) 発問の工夫

展開前半では、1年生という発達段階を考慮して場面把握をする。教材の世界に入ってみそさざいに自我関与し、共感的に考えていけるであろう。

展開中盤では、「うぐいすの家にいるのに、わざわざ遠いところに行く必要はないのでは」という批判的な発問をすることで揺さぶりをかけ、道徳的価値へ近づけたい。

(イ) 意見交流の工夫

本時では、展開の中盤で役割演技を取り入れる。児童がみそさざいの役割を演じることと、価値にせまる問いかけをすることにより、友達の喜びが自分の喜びになることにも気付くのではないかと考える。

(ウ) その他

導入場面で友達についてのアンケート結果を提示することで、本時のねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。

展開場面では、みそさざいとやまがらの友達としてのレベルをハートで示し、視覚的に二羽の心の距離を分かるようにする。最初と最後までどのような違いがあるのかなど変化の理由を問うことで友達と仲よくするために大切なことは何かを深く考えることができるのではないかと考える。

4 単元の指導

(1) 本時のねらい

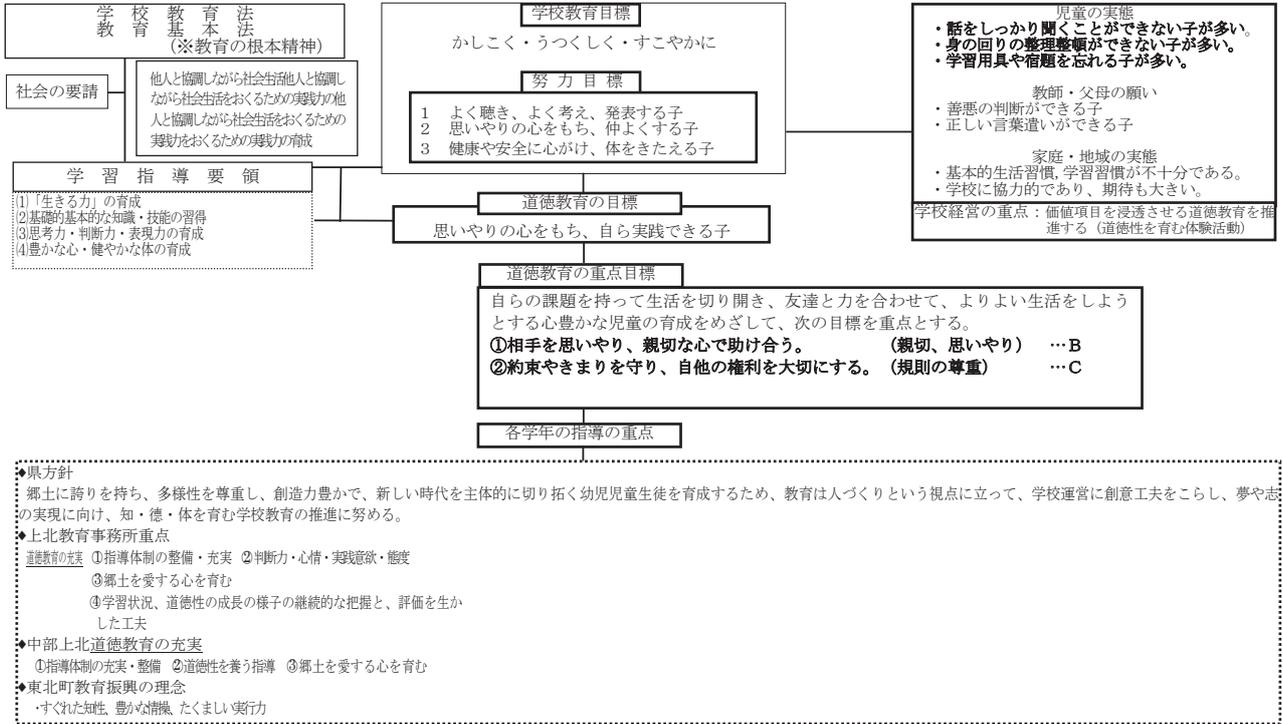
みそさざいの心情を役割演技して考えたり、友達との関わりを振り返ったりすることで、相手の気持ちを考えて行動することの大切さと、それが互いの喜びになることに気づき、仲良くしていこうとする心情を育てる。

(2) 展開

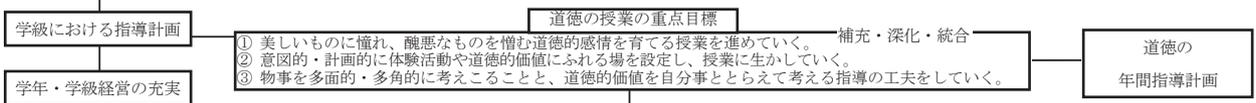
	学習活動 (○発問/指示 ・予想される児童の反応)	◎指導上の留意点 ※評価 ☆仮説に関わる手立て
導入 5分	1 本時の学習について考える。 ○友達についてのアンケートです。結果を見てどう思いましたか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ともだちとのことについてかんがえよう。</div>	☆道徳的価値についての方向付けを図る。(ウ)
展開 33分	2 教材文を読んで、話し合う。 ○みそさざいは、迷っていたのにどうしてうぐいすの家に行ったのでしょうか。 ・うぐいすの家が明るくて楽しそうだから。 ・みんなが行くといったから。 ○やまがらとみそさざい、二羽のなかのよさをハートで表してみましよう。どうしてそう思いますか。 ◎やまがらの家について、みそさざいはなんとお話しするのでしょうか。ワークシートにお話の続きを書きましよう。(やまがらさん、お誕生日おめでとう。) ・遅くなってごめんね。 ・今から一緒にお祝いしよう。 ・楽しいことして遊ぼうよ。 ○やっぱりきてよかったと思っている時の二羽のなかのよさをハートで表しましよう。どうしてそう思いますか。 ・二羽ともにここにこしてうれしそうだから、さっきより上がったと思う。 3 本時のテーマについて考えを深める。 ○みそさざいのように友達がうれしくなるようなことをしたことはありますか。 ・ドッジボールでボールをゆずった。 ・一人でいたお友達を遊ぼうと誘った。 ・鉄棒のやり方を教えてあげた。	◎挿絵を活用し、登場人物の関係や内容を理解させる。 ◎うぐいすの家にながらやまがらのことを考えていることを押さえる。 ☆場面把握をし、教材の世界に入ってみそさざいに自我関与させ、共感的に考えていけるようにする。(ア) ◎数人に発表させ、友達レベルがまだ低いことを確認する。 ☆わざわざ遠いところに行く必要はないのではないかという批判的発問をすることで揺さぶりをかけ、道徳的価値へ気付けさせる。(ア) ☆教師がやまがら、児童がみそさざいと役割を分けて演じる。友達の喜びが自分の喜びになることにも触れる。(イ) ☆視覚的に二羽の心の距離を分かるようにする。変化の理由を問うことで友達と仲良くするために大切なことは何かを深く考えさせたい。(ウ) ◎お互いの気持ちについても発表させ、互いにうれしいことに気付かせる。 ※友達との関わりを書くことで友達の気持ちを考えて行動することの大切さと互いの喜びになることに気付くことができたか。(ワークシート・発言)
終末 7分	4 本時の学習を振り返る。 ○ワークシートに振り返りを書きましよう。終わったらみんなですらうを見ましよう。	◎友達と楽しそうに関わっている写真を見せる。

道徳教育全体計画

東北町立上北小学校



各教科における道徳教育	特別活動における道徳教育	その他の教育活動における道徳教育
<ul style="list-style-type: none"> 各教科の目標達成の中で、課題をやりぬく態度、自ら学ぶ姿勢、協力したり学び合ったりする姿勢を培う。特に以下の内容にポイントを当てる。 <ul style="list-style-type: none"> 国語～伝え合う力、伝統・文化の尊重 社会～郷土を愛する心、公民的資質 算数～合理的な追究態度、根気 理科～生命の尊厳、自然の愛護 生活～基本的な生活態度、自立への基礎 音楽～美的情操、崇高さ、豊かな感性 図工～美的情操と創造性 家庭～家族愛、家族の一員としての役割 体育～健康・安全、集団のルール 	<ul style="list-style-type: none"> 集団の一員としての自覚を高め、協力してよりよい生活を築こうとする自発的・自主的な実践活動を通して、以下のような態度や実践意欲を高める。 <ul style="list-style-type: none"> 学級活動 <ul style="list-style-type: none"> 望ましい人間関係、意欲的な生活態度 児童会活動 <ul style="list-style-type: none"> 集団の一員としての役割、責任と協力 クラブ活動 <ul style="list-style-type: none"> 創意工夫のある活動、向上意欲 学校行事 <ul style="list-style-type: none"> 集団の中での個人のあり方・協力 積極性・実践力、勤労・奉仕の心 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けさせるため、計画的意図的に働きかける。 <ul style="list-style-type: none"> 日常生活指導(生徒指導会議で情報交換) 生活指導の重点：挨拶、廊下歩行、整理整頓 上小くらしのきまりの共通実践 教育相談の計画的実施 道徳実践の場とし、道徳的行為の自立を図る。 <ul style="list-style-type: none"> 集会～基本的な行動様式の習得(お話の聞き方、行進、並び方等) 清掃～細かな掃除による協力(お話の聞き方、行進、並び方等) 給食～好き嫌いをせず、楽しい給食 読書～読書指針を継続することにより豊かな心を養うこと ボランティア活動の継続で奉仕の心・思いやりの心情を育てる。(多様な体験活動の工夫) <ul style="list-style-type: none"> 福祉施設への訪問、交流 社会奉仕～花植え奉仕作業、募金活動等 お年寄りとの交流 物を大切にする心を育てる。 <ul style="list-style-type: none"> プルタブ回収等
外国語活動における道徳教育 <ul style="list-style-type: none"> 日本人としての自覚をもたせる。 世界の人々との親善に努めようとする態度を育成する。(言語・文化についての体験的理解を通して) 	総合的な学習の時間における道徳教育 <ul style="list-style-type: none"> 問題を解決する資質能力を育成する。 主体的、創造的に取り組む態度を育成する。(体験、コミュニケーション、節度) 自己の生き方を考える。 	



各教科における道徳教育	特別活動における道徳教育	その他の教育活動における道徳教育
<ul style="list-style-type: none"> 各教科の目標達成の中で、課題をやりぬく態度、自ら学ぶ姿勢、協力したり学び合ったりする姿勢を培う。特に以下の内容にポイントを当てる。 <ul style="list-style-type: none"> 国語～伝え合う力、伝統・文化の尊重 社会～郷土を愛する心、公民的資質 算数～合理的な追究態度、根気 理科～生命の尊厳、自然の愛護 生活～基本的な生活態度、自立への基礎 音楽～美的情操、崇高さ、豊かな感性 図工～美的情操と創造性 家庭～家族愛、家族の一員としての役割 体育～健康・安全、集団のルール 	<ul style="list-style-type: none"> 集団の一員としての自覚を高め、協力してよりよい生活を築こうとする自発的・自主的な実践活動を通して、以下のような態度や実践意欲を高める。 <ul style="list-style-type: none"> 学級活動 <ul style="list-style-type: none"> 望ましい人間関係、意欲的な生活態度 児童会活動 <ul style="list-style-type: none"> 集団の一員としての役割、責任と協力 クラブ活動 <ul style="list-style-type: none"> 創意工夫のある活動、向上意欲 学校行事 <ul style="list-style-type: none"> 集団の中での個人のあり方・協力 積極性・実践力、勤労・奉仕の心 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けさせるため、計画的意図的に働きかける。 <ul style="list-style-type: none"> 日常生活指導(生徒指導会議で情報交換) 生活指導の重点：挨拶、廊下歩行、整理整頓 上小くらしのきまりの共通実践 教育相談の計画的実施 道徳実践の場とし、道徳的行為の自立を図る。 <ul style="list-style-type: none"> 集会～基本的な行動様式の習得(お話の聞き方、行進、並び方等) 清掃～細かな掃除による協力(お話の聞き方、行進、並び方等) 給食～好き嫌いをせず、楽しい給食 読書～読書指針を継続することにより豊かな心を養うこと ボランティア活動の継続で奉仕の心・思いやりの心情を育てる。(多様な体験活動の工夫) <ul style="list-style-type: none"> 福祉施設への訪問、交流 社会奉仕～花植え奉仕作業、募金活動等 お年寄りとの交流 物を大切にする心を育てる。 <ul style="list-style-type: none"> プルタブ回収等
外国語活動における道徳教育 <ul style="list-style-type: none"> 日本人としての自覚をもたせる。 世界の人々との親善に努めようとする態度を育成する。(言語・文化についての体験的理解を通して) 	総合的な学習の時間における道徳教育 <ul style="list-style-type: none"> 問題を解決する資質能力を育成する。 主体的、創造的に取り組む態度を育成する。(体験、コミュニケーション、節度) 自己の生き方を考える。 	

教育環境	生徒指導	家庭・地域社会との連携
<ul style="list-style-type: none"> 教師と児童が協力して明るく温かく清潔な環境整備を図ることを通じて、仕事を責任をもって粘り強く最後までやり通す態度を育てる。 <ul style="list-style-type: none"> 学習環境の整備(校庭、廊下、向心等持てる環境) 環境美化(花いっぱい運動等の推進) 人の環境の重視(地域の人材を積極的に活用) 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の定着を図り、正しく自己表現ができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> 共感的な態度での助言、励ましを積み重ねる。(挨拶、廊下歩行、整理整頓) 信頼に支えられた人間関係の確立 共通理解による全学的指導(生徒指導会議) 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域社会との連携を密にし、共通理解を深め、協力し合いながら実践に向かわせる。 <ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域の教育力の活用 協力関係の確立・中学校との情報交換 理解を求める活動 <ul style="list-style-type: none"> 道徳参観日、子供会活動、奉仕活動 学校・学年・学級・P・Dより、地域行事

道徳実践の日常化(学級経営、日常的教育活動、ボランティア活動)

東北町立上北中学校



よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業 完了報告書

(東北町立上北中学校)

1 道徳教育に関する取組状況の概要

本校では、校内研修において「基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、主体的に学ぶ生徒の育成」を研究主題に掲げて、生徒に「学びの自覚化」を促す取組を積み重ねている。道徳教育においても、自分の言動を振り返り、自主的に考え行動し、思いやりをもって他者と関わること、社会生活を送るうえでの最低限の規範意識をもつこと、自他の生命を尊重することを目標に置き、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実に向け、体験的活動との関連を意識した教育活動を進めた。

(1) 研究の方法

① 道徳科における指導の工夫

ア 計画的・発展的な指導の計画・実施

イ 「考え、議論する道徳」を意識した発問や授業展開の工夫

ウ 多様な価値観に触れる機会と自己の変容を振り返る場面の設定

② 学校行事等との関連を意識した指導の工夫

ア 学校行事等のねらいへの道徳的価値の位置付け

イ 行事や学期目標での定期的な生徒の振り返り

ウ 学校全体で取り組む指導方法の工夫や発達段階を考慮した指導方法の工夫

以上の①、②に取り組み、以下のとおりに成果等の把握と検証を行う。

ア 道徳アセスメントの実施・分析

イ 学校生活全般を通しての生徒の変容分析（教員による観察、学校評価等の活用）

ウ 生徒による行事や学期目標の振り返り（記述）

エ 公開授業等による教員対象のアンケート結果や協議内容の分析

(2) 研究の推進状況

① 道徳科の授業については、基本方針と研究計画に基づいて進めることができた。学級担任以外の授業の実施や指導案検討会、研究授業や協議会など様々な取り組みを通じて、教員全体の道徳教育に対する共通理解がより一層得られ、研究が深まった。

特に、発問の工夫と振り返る場面の設定について、授業者を中心によりよいものを求めて実践を重ねたことで、生徒、教員ともに前向きな変容が見られた。

② 学校行事等との関連を意識した指導については、年間を通して諸行事の要項に道徳の内容項目を位置付けて計画・実施することで、あらゆる活動場面で道徳教育を意識して取り組むことができた。また、その内容項目を振り返りの視点とすることで、生徒の記述内容に質的变化が見られ、研究の成果を感じながら取組を進めることができた。

他にも、各学期の個人目標やその振り返り、全校話し合い活動など特別活動との連携も図り、教育活動全体を通じて道徳教育を推進した。

2 実施した研究内容

(1) 道徳科における指導の工夫

① 計画的・発展的な指導の計画・実施

ア 各教科や諸行事との関連を意識した指導計画

体育祭や文化祭、秋まつり（総合的な学習の時間）などの行事の他、修学旅行や職場体験学習など各学年の学習活動や各教科の内容との関連を意識した指導計画を立てた。また、校内の授業研究や公開授業の実施に向けて、打ち合わせや指導案検討会を複数回計画し、日程を調整しながら実施した。道徳科を核として、諸活動の学びをつなげることができた。

イ 学級担任以外の授業の実施

本校では、学級担任の授業を基本としつつ、授業者と担任で事前事後の打ち合わせを行いながら、学年職員が各学期に数回授業を行ったり学年一斉道徳を実施したりしている。1、2組の学級担任が、1つの教材を両クラスで互いに授業することもあった。また、学年道徳では校長が参加する授業も全学年で実施するなど、今年度も全職員で道徳科の授業に取り組んだ。具体的には、各学年の道徳部員を中心に担当表（資料1）であらかじめ職員の担当日を計画し、授業後は職員室に掲示してある進捗状況確認シート（資料2）に誰がどの教材を実施したかを記録し、その後の授業の見通しを立てて進めた。担任以外が授業を行うことで学級の様子を共有でき、担任にとっては生徒の様子や他の職員の授業から気付きを得ることにもつながった。

② 「考え、議論する道徳」を意識した発問や授業展開の工夫

ア 「学びのテーマ」を提示する

教科書に示されている「学びのテーマ」や生徒の実態に合わせ授業者が設定した学習テーマを導入場面で提示し、何を学ぶのか生徒に見通しをもたせた。終末場面では、そのテーマに立ち返って考えさせ1時間の授業を展開させた。考えさせたいことを一貫させて授業を進めることに有効だった。

イ 導入場面で「これまでの自分」や「本質的な問い」を問う

導入場面では、本時のテーマや教材の内容に関連する発問や事前アンケートの結果の提示を行い、普段の自分やこれまでの自分について思い起こさせたり、「礼儀はなぜ大切か」や「本当の友情とは何か」のような道徳的価値について問いかけたりした。このことによって、展開場面での意見や終末場面の振り返りの内容と比較することができ、授業を通してどのような変容があったかが分かりやすかった。

ウ 対話の場面を設定する

班で机を合わせて議論するという形にこだわらず、短い時間でも周りとの意見を交わす場面を適宜設けた。具体的には、座席の近い人同士で意見交流をする他に、ノートやワークシートを互いに見て歩くなど学級の実態や授業での反応に合わせた方法で行った。言葉で伝えることで自分の考えをより明確にしたり、他者の意見を聞くことで別の視点から考えるきっかけを得たりするなど、考えの広がりや深まりを促すことがねらいであったが、他にも、全体の場で意見を発表することが苦手な生徒にとっては大切な自己表現の場となり、主体的に取り組む活動場面としても有効だった。

エ 価値に迫る中心発問の吟味

中心発問については、内容項目の価値理解と授業のねらいに近づけるよう吟味するとともに

に、生徒の実態を踏まえた工夫に取り組んだ。語彙力や生活経験の差も考慮しながら発問を工夫し、検証授業を通して補助発問と問い返しの重要性も全職員で共有することができた。

③ 多様な価値観に触れる機会と自己の変容を振り返る場面の設定

ア 学級担任以外の授業や学年一斉道徳の実施

(1) ①イで述べたとおり、学年職員が各学期に数回ずつ授業を行ったり、学年一斉道徳を実施したりした。生徒にとって多様な価値観に触れる機会確保の一助としている。また、教員にとっては教科指導では気付かなかった生徒の一面に触れることとなり、日常での指導に生かされる部分も大きい。

イ 振り返り記入シートの活用

今年度から使用している教科書の巻末にある「まなびの記録」のページを、振り返りの記入シートとして活用した。切り取りが可能なのでこのシートだけ回収することができ、点検やコメント記入がしやすかった。最も良い点は、これまでの学びを一枚の用紙で振り返ることができる点である。生徒にとっても、自分の変容に気付くためのツールになったと思われる。



教科書の巻末「まなびの記録」

中学道徳 きみがいちばんひかるとき 光村図書

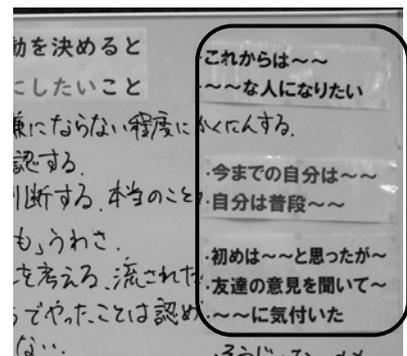
ウ 学期ごとの振り返り（全校共通）

学期末には、全校共通のシート（資料3）で道徳科の授業の振り返りを行った。内容は、学習した教材で印象に残っているものとその理由について、また授業への取組状況についてである。生徒の記述から授業の成果や課題を分析するとともに、評価にも活用することが目的である。例年実施しているが、今年度は生徒の生活の個人目標の「徳（心）」に関する振り返りもこのシートに加えて記入させた。道徳的な視点から、行動に表れている自分の変容の有無を振り返らせることができた。

エ 振り返りの「文型」の提示

本校では、校内研究主題に基づき「学びの自覚化」を促す取組を積み重ねている。道徳教育においても、自己の学び、変容を振り返ることを大切にして取り組んできた。終末場面において、教材の感想に終始することなく自分の生き方につなげようとする振り返りができるよう、視点を示したり声掛けをしたりしてきたが、県外研修で学んだ取組事例を参考に、次の「文型」を提示することとした。2学期後半からの取組ではあるが、書くことを苦手とする生徒への手立てとして有効だったので今後も継続していきたいと考えている。

- ・これまでの自分を振り返って
 - 「今までの自分は～～」「自分は普段～～」
- ・今日の授業での変化を見つめて
 - 「初めは～～と思ったが～～」
 - 「友達の意見を聞いて～～」
 - 「～～に気付いた」
- ・これからの自分を思い描いて
 - 「これからは～～」
 - 「～～な人になりたい」



文型の掲示の様子

(2) 学校行事等との関連を意識した指導の工夫

① 学校行事等のねらいへの道徳的価値の位置付け

今年度から、諸行事の要項に関連する内容項目を記載し、道徳的価値の位置付けを行った。下表に示したのがその一部である。このことによって、教員は道徳的価値を意識しながら計画を作成し、内容等の見直しや指導の改善にもつながった。

諸行事に関連する内容項目の例

体育祭	C (15) よりよい学校生活、集団生活の充実
中体連壮行式	A (3) 向上心、個性の伸長 B (7) 礼儀
心と身体 の健康教室	A (3) 向上心、個性の伸長 B (8) 友情、信頼 A (4) 希望と勇気、克己と強い意志
秋まつり	C (16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
上中祭	A (3) 向上心、個性の伸長 C (15) よりよい学校生活、集団生活の充実
職場体験学習	B (7) 礼儀 C (13) 勤労

② 行事や学期目標での定期的な生徒の振り返り

上記のように行事の要項に位置付けた内容項目については、活動後に、それを視点とした振り返りを行うという具体的な取組につなげた。下の写真が、行事の振り返りの記入の様子である。事実の羅列や「楽しかった」「〇〇がうまく行ってよかった」などの感想に終始せず、取り組んだ過程や自分の内面の変化についての記述が増えた。振り返る視点を与えることで、準備・練習から当日までの活動に対して、自分なりに価値づけをすることができたと思われる。

2025体育祭を振り返って
令和7年5月19日(月)

3年上組 組長 氏名
自己評価: A 大変よくできた B よくできた C 少しできた D できていなかった

1. 委員会活動
 () 学年評議 委員長 (仕事) 自己評価 A
 *行事の反省(前日まで、当日、後片付け等、活動したことを具体的に)
 学年練習の運営 当日の誘導

2. リーダー活動(役割のあった人は書きましょう。)
 役 自己評価 コメント(頑張ったことや今後の課題など)
 副団長 A 副団長としてちゃんと役割をこなせた

3. ブロック・学校での活動について
 ブロックでの自己評価 学校での自己評価 自分が行った仕事や役割
 A A 副団長
 *コメント(頑張ったこと・自分の学校について、考えたことや学んだこと等)
 学校では、全員が協力して計画を立てたり、ダンスを教える(り)することや、ブロックも、全員が積極的にダンスを練習できた。など。

4. 「心を一つに」の体育祭全体を振り返っての個人の振り返り
 (学級・学校が集団としてよりよくなるために、何ができたか、できなかったか)
 私は、集団がよりよくなるために、全体を見? 何が? 何が? 何を判断して? 良い方向に進められたと思う。上中祭でも生かしたい。

5. 「上中生の学び力」向上のための振り返り。体育祭を通して、頑張った・伸びたと思う項目に○をつけましょう。

自制心	忍耐力	俯瞰力	向上心	自尊心	楽観性	協調性	共感性	社交性
○			○		○			○

体育祭の振り返りシート

4. 「心を一つに」の体育祭全体を振り返っての個人の振り返り
 (学級・学校が集団としてよりよくなるために、何ができたか、できなかったか)

私は、集団がよりよくなるために、全体を見? 何が? 何が? 何を判断して? 良い方向に進められたと思う。上中祭でも生かしたい。

「上中生の学び力」向上のための振り返り。体育祭を通して、頑張った・伸びたと思う項目に○をつけましょう。

自制心	忍耐力	俯瞰力	向上心	自尊心	楽観性	協調性	共感性	社交性
	○		○		○			○

秋まつり全体を振り返っての感想

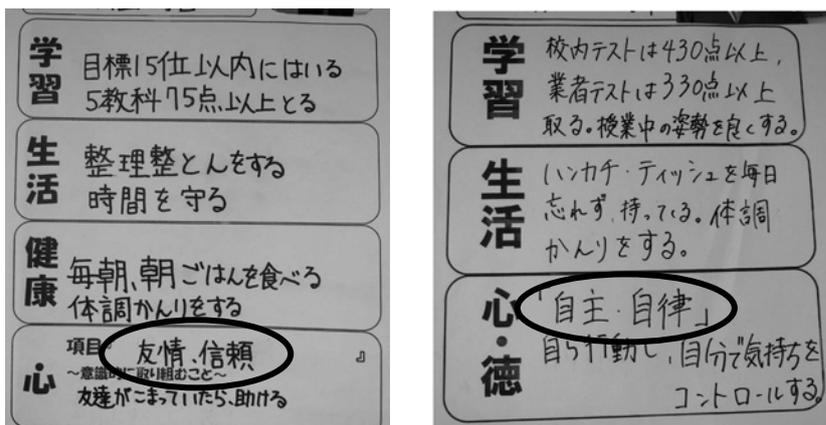
私が三日間、秋祭りに出て感じたことは、地域の伝統をこれから守りたい、継いでほしいということ。楽しい秋祭りをこれから見たいので、この伝統を守るようにこれから町内の秋祭りに出ようと思いました。

秋まつりのシートへの記述

また、各学期の初めに生徒一人一人が記入する生活の個人目標についても、内容項目と関連させて取り組んだ。

下の写真のように、様式は学級・学年によって異なるが、心に関する部分に内容項目とその具体的な行動目標を立てさせることを共通の取組として行った。記入の際は、道徳の教科書等で内容項目の一覧を見て、その中から自分が伸ばしたいと思う項目を選んで記入するよう指導した。22項目を一気に見ることは道徳科の授業でもあまりないことなので、道徳性を養うキーワードとして内容項目に触れること自体にも意義があったと感じる。

さらに、学期ごとの道徳振り返りシートの最後に、個人目標の振り返り記入欄を設けて自分の行動について書かせ、次の学期につながるようにした。



生徒の個人目標（1学期）

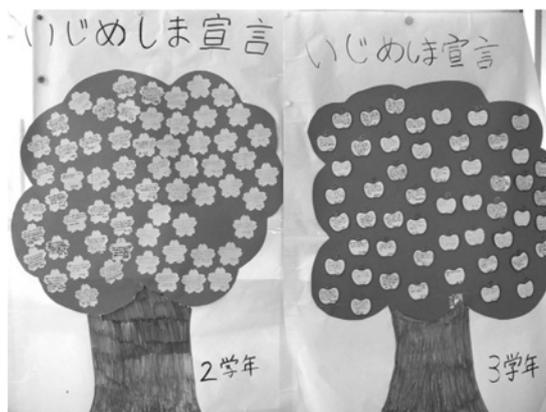
③ 今学期の個人目標に掲げたことを実行できましたか。振り返って、具体的に書いてください。

目標『	』...

学期末の振り返り記入欄 ※シート全体は資料3

③ 学校全体で取り組む指導方法の工夫や発達段階を考慮した指導方法の工夫

右の写真は、生徒会主催の話合い活動「いじめゼロプロジェクト」の取組の一環である、生徒一人一人の決意をまとめた「いじめしま宣言」の掲示物である。本校では、例年1学期にこの取組を行うなど、いじめ対策や心の教育に特別活動でも力を入れている。



また、右の写真のように、心に留めておいてほしいキーワードや名言を廊下に掲示し、心を育むための言語環境を整えることも工夫した。新しい掲示物に気付くと足を止めて見たり、全校集会での講話を思い出して話題にしたりする様子も見られた。



(3) 「考え、議論する道徳」の実現に向けた指導力向上や指導方法の工夫

① 諸研究大会への参加

ア 日本道徳教育学会への参加

(6月28日～29日)

研究発表や分科会に参加し、メタ認知や自己調整学習の観点を取り入れた「振り返りスキル」(右図)や「認め、励ます評価」、また道徳キーワードの開発など多様で先進的な取組を学んだ。これらを参考にして、本校では振り返りの「文型」を生徒に提示することにした。

振り返りスキル(考え方や書き方)	
(分かっていけれど)わからなくなった はじめは〇〇だったけれど、終わりにには… 見方が変わった(～だと思っていたけれど) AかBか決めるのではなく、両方とも考える もし、～だったら もし、～ではなかったら… ハートの(22の心) 例えば～ ぼくも…、わたしも… ～と思う人がいるかもしれないけれど… ～さんが言っていたように	教科書のお話と、ドラマやアニメと比べる 教科書に書いていないことに注目する 教科書に出てくる人物と自分を比べる うかんだ疑問・問いとそれに対する答え ことわざを使う 図やイラストを使う 自分のこれまで(過去)を振り返る 自分のこれから(未来)を考える 今、自分にできることは… エピソード

吉田 和樹氏(神戸市立小部小学校)日本道徳教育学会 配付資料より

イ 上越教育大学上廣道徳教育アカデミー研修大会への参加(9月19日)

公開授業と分科会に参加し、特にウェルビーイングカードの活用が参考になった。カードの内容は、「価値観の理解と尊重」「感謝」「多様性」「挑戦」「自己調整」などで、活用方法は主に終末の振り返りの場面で、生徒が自分の意見に近いカードを選んで考えたことを記述するというものであった。自分の思いの言語化が困難な生徒にはとても有効な手立てだと感じた。

ウ 東北地区中学校道徳教育研究大会

秋田大会(10月24日)

公開授業と分科会に参加した。研究主題に基づき設定した「主体的・対話的で深い学びを支える9つの視点」(右図)を授業改善の視点として取り組んでいた。発問や指導の展開を考えるのに非常に役立つ、分かりやすい視点である。実際、本校でも研修報告を受けた職員が、この9つの視点を授業づくりに生かす姿も見られた。

	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
導入	①本時の主題に対する課題意識を引き出す手立て [学習意欲が高まる]	④本時の学びに関する生活経験や既習事項を想起する対話 [自分との関わりを意識]	⑦授業開始時点での道徳的価値に関する児童生徒の実態把握 [自分の現状を捉える]
展開	②自分自身との関わりで考えさせる発問の工夫 [自分事として考える]	⑤多面的・多角的な考えを引き出す発問と板書による可視化 [他者の考えとの異同]	⑧予定調和を揺さぶり、児童生徒の考えを深める補助発問 [より深く考える]
終末	③本時の学びを基に自分の考えを再構築し、言語化する場の設定 [よりよい生き方を考える]	⑥互いの変容や深まり、感じたことの共有 [自分の考えを補完]	⑨本時の学びを深く印象付ける手立て [道徳的価値を実感]

①～⑨授業改善の視点 [] 期待される子供の姿

東北地区中学校道徳教育研究大会秋田大会 配付資料より

エ 全日本中学校道徳教育研究大会岐阜大会(11月27日～28日)

公開授業と研究協議、分科会に参加した。全ての公開授業の指導案で、中心発問のあとに「深めるための補助発問」が設定されており、本校でも公開授業で問い返しや補助発問にこだわって取り組んだのでとても参考になった。振り返りについても重視して取り組んできたので、分科会は振り返りをテーマにしている部会に参加した。行事と道徳の関連づけについて、行事の前に道徳の授業を行うと、振り返りが決意表明のようになってしまい、道徳科としてのねらいとは異なってくるという課題が示された。行事後に行うことで価値理解を深めている様子が紹介されたので、年間計画を立てる際の参考にしたい。

② 校内研修の充実

本校では令和6年度から研究主題「基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、主体的に学ぶ生徒の育成～学びの自覚化を促す取組の工夫を通して～」を掲げ、日々の研修に取り組んでいる。学力の向上及び学びに向かう力の向上が本校の課題であり、生徒一人一人が自己の学びの様子を見つめ、成長や変容を実感しながら取り組むことが有効であると考えたからである。そこで、学習の振り返りや自己評価、また「非認知能力」の視点を取り入れた取組を行っている。

この研究主題を踏まえ、道徳科の授業では「自己を見つめ、振り返る」ことと「自己（人間として）の生き方の考えを深める」ことに重点を置くこととし、生徒が終末場面で自分事として振り返りを行うことができる授業づくりを目指して取り組んだ。生徒の実態やアセスメントの結果から分析したことなどをもとに、指導案づくり、検証授業での協議、同一指導案での授業を実施するなど、研修を活発に進めることができた。

また、夏季の校内研修会では各教科の振り返りをテーマにし、生徒が実際に記述したものを出し合って、視点のめたせ方や内容の見取り方について演習形式で研修を行った。

「3つの力&9つの行動」で伸ばそう！上中学生の学ぶ力！		
自分と向き合う力	自分の感情や行動をコントロールし、やるべきことに取り組むことができる	自制心
	途中であきらめず、粘り強くやり抜くことができる	忍耐力
	できる、できないを把握し、計画を立てることができる	俯瞰力
自分を高める力	失敗を恐れず、高い目標や苦手なことにも挑戦することができる	向上心
	自分の力を信じて、周囲のために貢献することができる	自尊心
	楽しみながら学び、自分の成長につなげることができる	楽観性
他者とつながる力	常に周りのことを考えて、行動したり発言したりできる	協調性
	困っている人に気付き、声をかけて助けることができる	共感性
	他者とのコミュニケーションを大切に、つながることができる	社交性

「上中学生の学ぶ力」（非認知能力の視点から設定）

③ 要請訪問（中部上北広域事業組合教育委員会）の実施（9月9日）

ア 主題名 思いやりへの感謝【内容項目 B（6）思いやり、感謝】

学びのテーマ 感謝の気持ちをもつ大切さについて考えよう。

イ 協議のポイント

- ・課題解決に向けた手立ての工夫はどうであったか。（発問、事前アンケート、班活動）
- ・学習の振り返りや自己の学びの自覚化についてはどうであったか。（自分事への手立て）

ウ 協議会より

- 事前アンケートを実施、活用することで、問題意識をもたせ、さらに当事者意識につなげることができた。
- アンケート結果を、グラフやテキストマイニングを使って提示したのは分かりやすくよかった。また、振り返りの場面で、自分事として考えさせるために再度見せていたこともよかった。
- 発問の組み立て、流れがスムーズだった。
- 意見を上手に受け止め、問い返していた。
- 周りとの意見を共有する時間の確保が必要だった。
- 「深く広く」という内容の中心発問は難しかったと思う。
- 中心発問が難しく、主人公以外の人物の視点など様々な立場から考えさせるなどの手立てが必要だったのではないかと。

エ 助言者から（中部上北広域事業組合教育委員会 指導主事 鈴木 拓摩 氏）

- ・本時では、事前アンケートを実施して、その結果を提示することで課題意識をもたせていてよかった。経験値が異なる生徒たちに対して、導入場面で前提条件をそろえてあげる手

立てはとても大切である。

- ・道徳科の授業を行うにあたり、道徳科の目標にある「道徳的諸価値についての理解」は決して外せないことである。価値理解、人間理解、他者理解に基づいてねらいに迫っていきよう今後も取り組んでいってほしい。
- ・教師は、授業の中では伴走者として、「支援的な問い」や「仕掛け的な問い」の工夫が一層必要となってくる。

④ 研究授業及び協議会の実施（11月14日）

ア 主題名 自分の意志で判断する【内容項目 A（1）自主、自律、自由と責任】

教材名 二番目の悪者（出典：「中学道徳2 きみがいちばんひかるとき」光村図書）

イ 協議のポイント

生徒がねらいを達成するために

- ・自分事として考えられるようなテーマ発問の設定はどうであったか。
- ・生徒の発言に応じた問い返しや補助発問は効果的であったか。
- ・その他の指導はどうであったか。

ウ 協議会より

<テーマ発問の設定について>

- 事前アンケートを基に、課題の設定の流れが自然だった。
- 「うわさに直面したとき」と限定し、生徒は考えやすかった。
- 「みんなならどうする？」という問いかけをすることで、自分事として考えていた。

<発言に応じた問い返しや補助発問について>

- 生徒の「初めは信じてなかった。」「多数派に負けた。」という発言に対して、「なんで？」、さらに「普段、みんなはどう？」という問い返しで自分事にさせていた。
- 「みんなを選んだのに人のせいになっている。」の発言の後、「誰を選んだの？」という問い返しで無責任、人任せにつながる意見を引き出せた。
- うわさを流すことに軽さと重さを感じさせる働きかけを入れるとよいのではないか。
- 「なぜあなたはそれが大切だと思ったの？」という問い返しで、それぞれの理由や気持ちを引き出せるのではないか。

<その他の指導について>

- 一人一人の発言を受容し、大切にしている。
- 板書が分かりやすい。
- 最後の発表で、全員を立たせ、同じ意見であれば座らせる方法が、全ての意見を聞くことができ面白い方法だと思った。
- 意見が同じだからと座る生徒は少なく、ほとんどの生徒が自分の考えを発表していた。どんな意見も受け止めてくれる安心感が要因だろうと感じた。

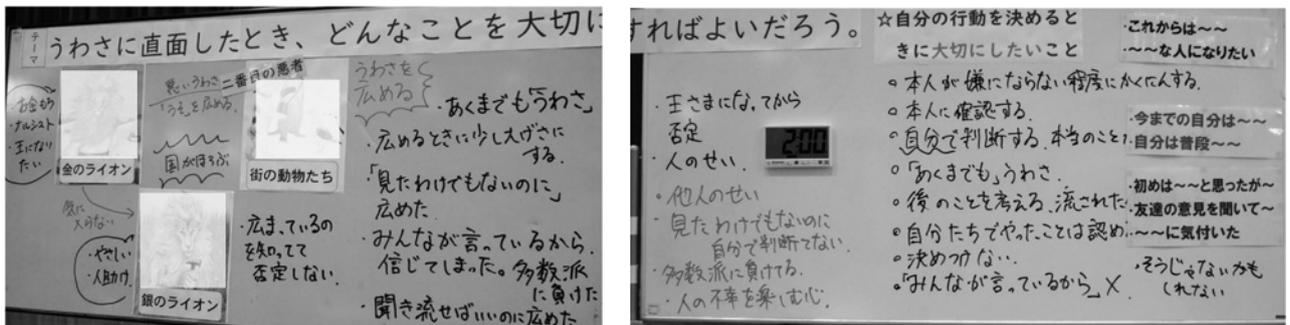
エ 助言者から（上北教育事務所 指導主事 相馬 葉子 氏）

- ・道徳科において道徳性の育成を目指すにあたり、生徒の実態を踏まえてねらいを決めていくことが大切である。本時では、自分の内に規律を作ることが苦手な傾向や結果を深く考えずに行動する傾向があるという実態を踏まえ、自分の行動を自分の意志で決め、その結果に責任をもとうとする心情を育てるというねらいを定めることができていた。

- ・ 考え議論して、価値の理解が深まるようにしたいという授業者の思いが、たくさんの問い返しに表れていた。例えば、「本当かどうか分からないのにうわさを広めたところが悪かった」という意見に対して、「本当なら広めるの？」と返し、責任という価値理解につながる気付きを生徒に与えていた。
- ・ ねらいであった「心情」に迫るために、様々な動物たちの心情に自我関与させることを中心とした学習も考えられる。

オ 参加者アンケートより

- ・ 今回の授業では多くの問い返しや補助発問が見られ、指導案にはないものもありました。温水先生がたくさんの準備をしていたのだと感じました。だからこそ、最後の生徒の意見発表ではねらいに迫る意見が発表されたのだと思います。
- ・ 発問の吟味と問い返しや補助発問によって、生徒の考えがより深まっていくことが実感できました。また、振り返りをさせる際は、視点を明らかにすることも有効だと分かりました。
- ・ 生徒の全ての発言に対して、温水先生が「そうだね」と受け止めており、生徒が安心して発言できる雰囲気に、とても温かい気持ちになりました。
- ・ 非認知能力の視点を取り入れた取組や掲示物など、学校として取り組んでいる実践も参考になりました。自校で取り入れられるところから少しずつ取り組んでいきたいです。



当日の板書



意見交流や発表の様子



‘全員発表’の様子

3 実施経過とその体制

月	取 組 の 内 容	備 考
4月	・全体計画、別葉、年間指導計画の作成	
5月	・道徳アセスメントの実施・分析① ・体育祭 ・生徒会主催の話合い活動「いじめゼロプロジェクト①」	・全校で実施
6月	・計画訪問（6／5） ・道徳部会：指導案検討会（6／19） ・日本道徳教育学会への参加（6／28～29） ・生徒会主催の話合い活動「いじめゼロプロジェクト②」	・道徳教育推進教師 ・全校で実施
7月	・道徳振り返りの実施① ・県道徳教育推進協議会：研究概要の発表（7／7）	・道徳教育推進教師
8月	・要請訪問指導案検討会（8／6） ・夏季校内研修：振り返りの書かせ方、見取り方について ・秋まつり	・指導主事要請
9月	・校内授業研究（9／9） 2年1組授業 内容項目 「思いやり、感謝」 授業者 温水 凜太郎 助言・指導 中部上北広域事業組合教育委員会 指導主事 鈴木 拓摩 氏 ・上越教育大学上廣道徳教育アカデミー研修大会への参加（9／19） ・公開授業指導案検討会①（9／24）	・指導主事要請 ・代表 ・指導主事要請
10月	・文化祭 ・公開授業指導案検討会②（10／21） ・東北地区中学校道徳教育研究大会秋田大会（10／24）	・指導主事要請 ・代表
11月	・公開授業：小・中学校道徳教育研究協議会（11／14） 2年2組授業 教材名 「二番目の悪者」 内容項目 「自主、自律」 授業者 温水 凜太郎 助言・指導 上北教育事務所 指導主事 相馬 葉子 氏 ・道徳アセスメントの実施・分析② ・全日本中学校道徳教育研究大会岐阜大会（11／27～28）	・全員、指導主事 ・代表
12月	・学校評価の実施 ・道徳振り返りの実施② ・教員アンケートの実施	
1月	・県道徳教育推進協議会：実践報告（1／13） ・道徳教育パワーアップ協議会：事例発表（1／23）	・道徳教育推進教師 ・道徳教育推進教師
2月	・道徳振り返りの実施③ ・研究のまとめ	

4 取組の成果と課題

(1) よりよい生き方を実践する力を育む道德教育に係る成果の概要

① 道德科における指導の工夫

導入場面や展開での発問と問い返し、また振り返りの場面で、「自分事」を意識した工夫をすることで、主題について自分のこととして考えようとする生徒が増えた。その変化は、アセスメントの数値の変化にも表れている。また、研究授業で発問や問い返しにこだわって取り組んだことで、議論を深める効果を改めて感じた。意見の背景にある価値観や思いを追究していくことで様々な気付きがあるということ、実感を伴って理解でき、今年度の取組を通じて授業者各々の授業改善に確実に繋がったと言える。さらに、研究計画に位置付けてはいなかったが、同一指導案授業を行って意見交換するなど、能動的に道德教育に取り組むことができたのも大きな成果の一つである。授業づくりについて意見を交わす頻度が増えたので、次年度も継続して研修を充実させていきたい。

② 学校行事等との関連を意識した指導の工夫

諸行事の要項に道德との関連を位置付けることで、教育活動全体を通じて道德教育を充実させることができた。教員側の成果としては、様々な活動場面で道德の視点をもった指導や支援を行う体制を築けたこと、生徒側の成果としては、視点をもった目標設定と振り返りができるようになり、自己の成長や課題を見つける力に向上が見られたことが挙げられる。

(2) 調査から見られる成果

① 道德アセスメント調査の結果から

ア 「思いやり・協力」について

調査名	道德教育アセスメント BEING (図書文化社)		
調査項目	困っている人への声かけ (思いやり・協力)		
回答項目	1 いつもしている 2 だいたいしている 3 あまりしていない		
調査対象	種別	①. 児童・生徒 2. 教職員 3. 保護者 4. その他 ()	
	学年等	1 学年	
調査時期	第1回 (事業開始前)		第2回 (事業終了時)
	令和7年5月		令和7年11月
回答結果割合等	回答1 67% 回答2 25% 回答3 6%	回答1 56% 回答2 38% 回答3 6%	
結果の考察	回答1の割合が減少した。他者との関わり方の変化なのか、周囲の反応が気になるなど発達段階による変化なのか、日常の行動観察で要因を探りたい。		

同調査項目 2学年

調査時期	第1回 (事業開始前)		第2回 (事業終了時)
	令和7年5月		令和7年11月
回答結果割合等	回答1 33% 回答2 48% 回答3 19%	回答1 45% 回答2 47% 回答3 8%	
結果の考察	回答1の割合が増加し、回答3は減少した。日頃の指導はもちろんのこと、修学旅行など仲間と協力して成功させた行事の達成感も影響しているのではないかな。		

同調査項目 3 学年

調査時期	第1回（事業開始前）	第2回（事業終了時）
	令和7年5月	令和7年11月
回答結果 割合等	回答1 30% 回答2 62% 回答3 8%	回答1 33% 回答2 57% 回答3 9%
結果の考察	大きな変化は見られず、回答1の割合は全国平均を下回っている。	

イ 「自主・自律」について

調査名	道徳教育アセスメント BEING（図書文化社）		
調査項目	目標に向かう努力（自主・自律）		
回答項目	1 いつもしている 2 だいたいしている 3 あまりしていない		
調査対象	種別	①. 児童・生徒 2. 教職員 3. 保護者 4. その他（ ）	
	学年等	1 学年	
調査時期	第1回（事業開始前）	第2回（事業終了時）	
	令和7年5月	令和7年11月	
回答結果 割合等	回答1 35% 回答2 57% 回答3 8%	回答1 35% 回答2 46% 回答3 19%	
結果の考察	回答3の割合が増加した。自分を律して努力することができなかつたと率直に評価していると思われるが、自分を厳しく見つめられるようになったという解釈もできる。		

同調査項目 2 学年

調査時期	第1回（事業開始前）	第2回（事業終了時）
	令和7年5月	令和7年11月
回答結果 割合等	回答1 29% 回答2 57% 回答3 14%	回答1 38% 回答2 48% 回答3 13%
結果の考察	回答1の割合が増加し、全国平均に近づいた。	

同調査項目 3 学年

調査時期	第1回（事業開始前）	第2回（事業終了時）
	令和7年5月	令和7年11月
回答結果 割合等	回答1 28% 回答2 54% 回答3 18%	回答1 37% 回答2 35% 回答3 28%
結果の考察	回答1の割合は増加したが、回答3も増加した。周囲と比較し自分を厳しく評価している可能性もあり、二極化の傾向が見られる。	

ウ 「自分のことを振り返る」について

調査名	道徳教育アセスメント BEING (図書文化社)	
調査項目	[道徳の授業に対して] 自分のことを振り返り深く考える	
回答項目	1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない	
調査対象	種別	①. 児童・生徒 2. 教職員 3. 保護者 4. その他 ()
	学年等	1 学年
調査時期	第1回 (事業開始前)	第2回 (事業終了時)
	令和7年5月	令和7年11月
回答結果 割合等	回答1 24% 回答2 53%	回答1 40% 回答2 33%
	回答3 23%	回答3 27%
結果の考察	当初は他学年に比べて低い傾向があったが、回答1の割合が増加した。授業での取組の成果が表れていると思われる。	

同調査項目 2 学年

調査時期	第1回 (事業開始前)	第2回 (事業終了時)
	令和7年5月	令和7年11月
回答結果 割合等	回答1 31% 回答2 48%	回答1 40% 回答2 45%
	回答3 21%	回答3 15%
結果の考察	回答1の割合が増加し、全国平均を上回った。	

同調査項目 3 学年

調査時期	第1回 (事業開始前)	第2回 (事業終了時)
	令和7年5月	令和7年11月
回答結果 割合等	回答1 44% 回答2 46%	回答1 44% 回答2 44%
	回答3 10%	回答3 11%
結果の考察	大きな変化は見られなかったが、全国平均と比較して良好な状態を保っている。	

エ 「友達の意見から学ぶ」について

調査名	道徳教育アセスメント BEING (図書文化社)	
調査項目	[道徳の授業に対して] 友達の意見から学ぶ	
回答項目	1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない	
調査対象	種別	①. 児童・生徒 2. 教職員 3. 保護者 4. その他 ()
	学年等	1 学年
調査時期	第1回 (事業開始前)	第2回 (事業終了時)
	令和7年5月	令和7年11月
回答結果 割合等	回答1 59% 回答2 33%	回答1 73% 回答2 23%
	回答3 8%	回答3 4%

結果の考察	全国平均や他学年と比べてやや低かった回答1の割合が増加した。「素直に発言している」という調査項目でも「よくある」の回答が大幅に伸びたことから、意見交流が活発になり学びが促進されたとと言える。
-------	---

同調査項目 2 学年

調査時期	第1回（事業開始前）	第2回（事業終了時）
	令和7年5月	令和7年11月
回答結果 割合等	回答1 62% 回答2 33% 回答3 5%	回答1 70% 回答2 23% 回答3 7%
結果の考察	回答1の割合が増加した。	

同調査項目 3 学年

調査時期	第1回（事業開始前）	第2回（事業終了時）
	令和7年5月	令和7年11月
回答結果 割合等	回答1 64% 回答2 32% 回答3 4%	回答1 72% 回答2 28% 回答3 0%
結果の考察	回答1の割合が増加し、回答3がゼロになった。3学年はアセスメントの結果が全体的に低い傾向にあるが、生徒にとって友達との対話は大きな意味をもつものと改めて感じる結果である。	

(3) 教師アンケートの結果より

- ① 「考え、議論する道徳」という点で工夫したこと・効果的だったこと
 - ・話し合う機会を増やした。（班で、近くの人と、ノートを見に行く）
 - ・生徒が考えに詰まっているとき、ペアやグループで話し合うことや共有することで互いに深め合っていた。
 - ・考え、議論しやすい発問になるよう、言葉選びを工夫した。
 - ・予想される反応を想定し、場合に応じた対応ができるよう多様な問い返しを準備した。
 - ・立場を明確にして意見を出させた。
 - ・ネームプレートを使用して、考えを比較しながら議論させると活発な話し合いになった。

- ② 「自分事として考える、自分の学びを振り返る」という点で工夫したこと・効果的だったこと
 - ・導入の発問や教材提示で身近なこと、もの、言葉に置き換えて考えさせた。また、そのときに出た意見や掲示物は黒板に残しておいた。
 - ・展開の後半や終末場面に進んだとき、導入での意見や最初の発問に立ち返って、行き来しながら考えさせた。
 - ・「自分だったら？」「自分が〇〇なときは？」などの発問を意識して取り入れた。
 - ・振り返りの文型を示すことで、書くことが苦手な生徒でも自分のこととして書くことができていた。
 - ・終末場面で、「自分ならどうするか」や「今後どうしていきたいか」など自分のこととして考えをまとめられるよう投げかけた。

- ③ 道徳科の授業に取り組む中で見られた、生徒の前向きな変化や成長
- ・自分の考えをたくさん書けるようになった。
 - ・以前より、授業に積極的に取り組むようになった。
 - ・他人の意見を否定せず、共感して聞けるようになってきた。
 - ・他人の意見や考えを認める雰囲気になってきたと感じる。
 - ・相手が自分の考えと違うときに、「なんで？」と聞き返し議論を深めていた。
 - ・深く考えさせることで、生活の中で生かそうとする生徒が増えてきた。
- ④ 道徳科の授業に取り組む中で見られた、授業者としての自分の前向きな変化や成長
- ・パワーポイントで授業を進める方法を取り入れたことで、事前準備を丁寧にすることができた。
 - ・今までは「宣言」的な結論にしがちだったが、研修を通してその考えを改めることができた。
 - ・研究授業や協議での指導・助言から、授業づくりの視点が変化した。
 - ・教材の内容を生徒に落とし込むことができると、問いや内容項目への理解が深まっていくことが分かった。
 - ・今までよりも「ねらいと発問」を意図的に設定するようになった。
 - ・学習指導要領を見る習慣がついた。
- ⑤ 道徳科の授業に取り組む上での課題点
- ・興味をもたせるための工夫
 - ・生徒を道徳の授業にのめりこませる方法
 - ・生徒にとって身近に感じづらい、実感させることが難しい内容項目の授業づくり
 - ・発問の工夫
 - ・生徒の実態に合わせた授業展開や問い返し
 - ・生徒の考えを深める工夫
 - ・構造的な板書

(4) 生徒による振り返りから

① 2学期の道徳振り返りシートより

<1年生>

- ・ノートに他の人の意見も書くようにしたら、自分では気付かない意見をたくさん知ることができ、新しい視点で考えることができた。
- ・「もし自分だったら」、「もしこの立場だったら」など、日常につなげられるように「もしも」を考えるようにして取り組めた。
- ・自分事として捉えたり、班の人と積極的に交流したりすることができた。自分の考えを言葉で表すことは苦手だけど、教科書や他の人の言葉を参考にして書いた。話合いの時は、他の人の意見をメモして、自分の意見と比べて考えることができた。

<2年生>

- ・1学期は自分の意見を言うのが怖くて全然発表できなかったけれど、2学期は少しずつでも自分の意見を言おうとすることができた。
- ・プリントにできるだけたくさん書いた。友達と交流して、自分とまったく違う意見をくわしく聞くことができた。(深く考えることや自分の考えを書くことを苦手とする生徒の記述)

- ・自分事として考え、自分ならどうしていたか、今までの自分はどうだったかを考えながら取り組むことができた。

<3年生>

- ・直接的に自分に関連していることでなくても、将来自分もなるかもしれない、と自分事として考えて取り組んだ。
- ・できるだけ素直な意見を言うように取り組んだ。たくさん発表したり、他の人の意見を聞いたりして、別の視点でも考えるような努力をした。
- ・自分の意見をしっかりともち、他の人に伝えることができた。他の意見を聞き、納得して自分の意見が増えることもあった。
- ・自分の人生と照らし合わせながら授業を受けた。そこから、直そうと思ったことや見習おうと思ったことをメモして、私生活に取り入れるようにした。

(5) 今後の課題

研究を通じて、ねらいと問いをどのように設定するか、十分に考えて授業を組み立てていく重要性を改めて認識した。そして、そのねらいに迫るため、問いの吟味や登場人物への自我関与など手立てを充実させていくことが今後の課題の一つである。今年度の成果である、自分事として考える工夫と深く考えさせるための中心発問及び問い返しの吟味は、継続して取り組んでいきたい。

授業の様子や様々な振り返りの記述内容から、生徒の前向きな変容が見られるが、道徳性の育成は一朝一夕にはいかない。だからこそ、常に生徒の実態を把握して、ささやかな変化を見逃さずに実践の励みとし、粘り強く今後も取り組んでいきたい。

第2学年2組 道徳科学習指導案

日 時：令和7年11月14日（金）3校時
場 所：体育館
対 象：2年2組31名
授業者：温水 凜太郎

- 1 主題名 自分の意志で判断する 【内容項目A（1） 自主，自律，自由と責任】
- 2 教材名 「二番目の悪者」（「中学道徳2 きみがいちばんひかるとき」光村図書）
- 3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

自律的な生き方とは、他者の考えに依存するのではなく自分の内面に善悪を判断する規律をもち、それに基づき自分の行為を自分の意志で決定する生き方のことである。また、それに伴い、自分で判断すればおのずと行動した結果に対して責任をもつことの必要性もわかってくる。次々と変わりゆく現代社会を生き抜いていくために、自分で判断し行動することについて考えを深めさせることで、自律の精神を重んじ、自分で判断して行動し、その結果に責任をもとうとする態度を育むことができると考える。

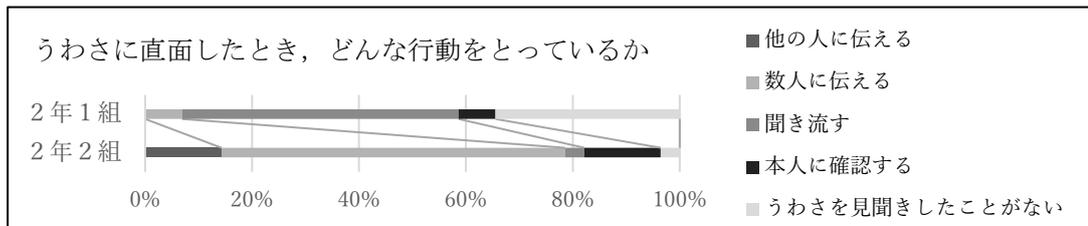
（2）生徒の実態について

この時期の中学生は、自律の精神を重んじることの大切さを理解してはいるものの、周りの目を気にしたり、深く考えずに多数の考えに同調したりして、自分の判断に基づいた行動がとれないことがある。また、その行動が思わぬところで人を傷つけたり予期せぬ結果を招いてしまったりすることがあることには気づけていない。本学級の生徒も例にもれず、4月に実施した「道徳教育アセスメント BEING」の学級風土「自律」に関する結果からは、自分の内に規律を作り、それを誠実に実行しようとする姿勢が弱いという学級の様子が見えた。

学級風土について 【自律】	とても そう思う	だいたい そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
工夫してより良いものを考える	38 (40)	41 (44)	19 (14)	2 (2)
作ったルールを守り学校生活を良くする	16 (26)	47 (44)	33 (25)	3 (5)
やるべきことをやりクラスを良くする	14 (34)	55 (47)	29 (16)	2 (3)
クラスと共に自分も良くなろうとする	21 (34)	50 (47)	26 (16)	3 (3)

*（ ）は全国

また、本時の授業の事前アンケートとして実施した「うわさに関するアンケート」でも、「うわさに直面したとき、他人に伝えることが多い」と答えた生徒がおよそ8割であった。



その行動をとった理由	
行動の種別	主な回答
他の人に伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・面白いから友達にも共有したい。 ・このことを知っているか気になるから。

数人に伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・本当のことかどうか確かめるために数人に聞いた。 ・もう既に流れてきているうわさだから皆が知っていると思って話した。 ・友達となら話が盛り上がり楽しいから。 ・仲の良い人だけなら別に問題ないだろうと思って話した。
聞き流す	<ul style="list-style-type: none"> ・面倒くさそうだったから。
本人に確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・本人に聞くまでは本当かどうかなんて分からないから。 ・本当か嘘か気になったから。 ・広めてもいい気分にはならないから、一応本人に確認する。

また、そう行動した理由に関しても「面白いから」や「仲のよい数人だけなら問題ない」などの回答が多く、その後の結果などを深く考えずに行動している様子が見て取れる。そのため本時では、うわさを広めてしまうという行動の根底にある考え方や人間的な弱さに共感させたい。またその結果事態が悪化していく可能性にふれ、自身の役割やしなければならぬことを自分で判断し、それに伴い行動し、その結果に責任を負う必要性を感じさせたい。

さらに生徒の実態として、授業に元気で明るく取り組むことができる生徒が多いが、聞く場面や話す場面、書く場面の切り替えができなかつたり集中力がなかつたりすることも多い。また、自分の考えを記述する場面では意欲や語彙力の低さから深まりのある意見を出すことが難しい。

以上をふまえ、聞く場面や話す場面の切り替えをしっかりと行いつつ、表面上の意見だけで終始しないよう、発問を工夫したうえで問い返しを行っていくことでさまざまな意見を吸い上げられるようにしたい。

(3) 教材について

本教材は、動物の国で、王の座を狙う金のライオンの流した悪意あるうわさを信じ、確かめもせずに広めていった動物たちの姿とその行く末を描いた物語である。

生徒たちは、この物語が訴えている問題を、容易に自分たちの問題と重ね、自分事として考えることができるだろう。二番目の悪者を生んだのは、どんな心かを考えさせる中で、自ら考えない、行動しないことの罪に気づかせ、自律の精神を重んじ、自らの行動に責任をもつ大切さについて考えさせたい。

4 校内研との関連

(1) 研究主題

基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、主体的に学ぶ生徒の育成
～学びの自覚化を促す取組の工夫を通して～

(2) 道徳科における研究内容

道徳的価値についての理解をもとに、自己を見つめ、振り返り、自己の生き方についての考えを深める授業方法を工夫する。

(3) 研究内容にかかわる工夫について

事前アンケートの内容と授業内の中心発問を関連させることで、自己の内面を見つめたり生活を振り返ったりしたことをもとに、深く考えさせたい。また、中心発問について考えさせる場面では意見を交流させることによって、さらには意見の内容に応じた補助発問や問い返しを効果的に行うことによって、行動の背景にある無責任さや人任せな姿勢について多面的に考えさせたい。このように手立てを工夫することで、自己を見つめる視点を獲得させ終末場面につなげていく授業を展開する。

5 本時について

(1) ねらい

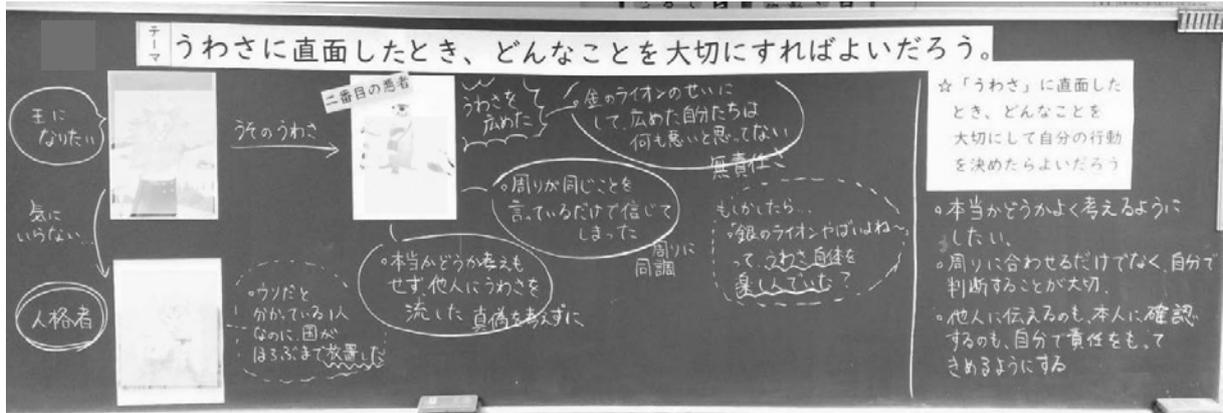
金のライオンが意図的に仕組んだうそを、ただ受け入れ広めてしまった動物たちの物語を通して、うわさに直面したときに大切なことについて考えさせることで、自分の行動を自分の意志で決め、その結果に責任をもとうとする心情を育てる。

(2) 展開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ◇評価の視点 (方法)
導入	1 事前アンケートの結果を提示し、「うわさ」について振り返る。 ・今までの生活で「うわさ」を見聞きしたことはあるか。 ・そのとき、どうしたか。	・ある。 ・よかれと思って「〇〇がこんなこと言っていたよ」と他の人に伝えた。 ・面倒くさいことになりそうだったのでそのまま聞き流した。 ・本当か怪しかったのでうわさの本人に確認した。	・不確実なうわさを聞いたときに、その真偽を確かめているか、それをさらに流したことで悪い結果になったことはないかについて振り返らせ、本時のテーマについて自分事として向き合わせる。 ・数人の生徒に「なぜそうしたのか」などとそのときどう考えて判断したのかを問い返す。
	2 本時のテーマを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">学びのテーマ 「うわさ」に直面したとき、どんなことを大切にすればよいだろう。</div>		
	3 物語の内容について確認する。 4 物語の二番目の悪者とは誰のことか考える。 ○「二番目の悪者」とは誰だろうか。 ・なぜこの動物たちが悪者なのか。 5 うわさを広めたことで「二番目の悪者」となってしまった動物たちの罪について考える。 ◎この動物たちのどんところが、動物たちを「二番目の悪者」にしてしまったのだろうか。	・他の動物たち。 ・動物がうわさを広めなければ金のライオンがうそをついていだけで終わっていたから。	・題材は予め読ませておく。 ・あらすじを確認しながら、金のライオン、銀のライオン、街の動物たちの関係についてまとめる。 ・なぜ他の動物なのか触れておくことで、次の中心発問で、「うわさを広めてしまったこと」などの行動についてのみの意見にならないようにする。 ・個人で考えさせ、その後周囲の生徒で交流させる。

<p>展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうすればうわさは広まらなかったのだろうか。 ・ どうしてうそが真実になってしまったのだろうか。 ・ 国が荒れてしまったあと動物たちはどんなことを考えているだろうか。 ・ うわさを広める人はどんなことを考えているだろうか。 ・ 銀のライオンは何も悪くないのだろうか。 <p>6 本時のテーマについての自分の考えをまとめる。</p> <p>○「うわさ」に直面したとき、どんなことを大切にして、自分の行動を決めたらよいだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本当か確かめてもないのに他人に伝えてしまうところ。 ・ 周りが言っているからというだけで信じてしまうところ。 ・ 自分の発言を他人のせいにしてしまう無責任なところ。 ・ 深く考えずに他人のうわさを楽しんでしまうところ。 ・ 事実でないと分かっている立場なのに、国が滅ぶまで何もしなかったところが悪い。 ・ 本当かどうかよく考えてから行動するようにしたい。 ・ 周りの人の言葉に惑わされず、自分で判断することが大切。 ・ それで事態が悪化すると責任が取れないので、できるだけ関わらないようにしたい。 ・ 自分が行動したあと、困る人がいないかどうか想像した上で行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「真偽を確かめていないこと」「周囲に同調していること」「他人のせいにしてしていること」「うわさ自体を楽しんでいる可能性があること」などを問い返しや補助発問を用いて深める。 ・ 銀のライオンやうわさを直接広めてはいない動物たちに触れることで、「行動しない」という判断にも責任があることを気づかせる。 <p>◇自分の行動を自分の意志で決め、その結果に責任をもとうとする大切さに気づけているか。</p> <p>(発表・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導しながら、「うわさを広めない」などで終わらないように「関わらないことが悪いときだってあるのに、そう判断した理由は」などと問いながら深めさせる。 ・ 個人で考えさせたあと、全員起立させ、1人ずつ発表させる。時間次第で、「同じ意見であれば座る」などルールを設けて立場を表明させる。
<p>終末</p>	<p>7 今までの自分やこれからの生活について、授業を振り返り感想を記入する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 視点を提示する。（「今までは～、今日の授業で～、これからは～」） ・ 記入に困っている生徒には授業の中で出てきた「自分で」や「責任」などをキーワードとして提示する。

(3) 板書計画



第2学年道徳ワークシート

年 組 番 氏名

テーマ 「うわさ」に直面したとき、どんなことを大切にすればよいだらう。

教材名 二番目の悪者

☆「 」とは誰だろう。

☆「 」のどんなところ（考え方や姿勢）が、「 」を「二番目の悪者」にしてしまったのだろう。

☆「 」に直面したとき、どんなことを大切に自分の行動を決めたらよいだらう。

☆今までの自分やこれからの生活について、授業を振り返り感想を記入しよう。

◆資料1

道徳担当表 2学年(案)				
月	週	年間行事	2年1組	2年2組
4	4/15	始業式 各組織会 参観日①		
	4/22			
5	5/20	生徒総会 体育祭 教育相談		
	5/27			
6	6/3	中体連夏季大会 期末テスト		
	6/10			
	6/24			
7	7/1	参観日② 台湾交流会 終業式		
	7/8			
	7/15			
8	8/26	秋まつり		
9	9/2	中体連新人大会 中間テスト		
	9/9			
	9/30			
10	10/7	上中祭		
	10/14			
	10/21			
	10/28			
11	11/4	修学旅行 教育相談 期末テスト		
	11/11			
	11/18			
	11/25			
12	12/2	生徒会役員選挙 参観日③ 終業式		
	12/9			
	12/16			
	12/23			
1	1/27	始業式 委員会・部活反省		
2	2/3	生徒総会 期末テスト		
	2/17			
	2/24			
3	3/3	卒業式 大掃除 修了式 離任式		
	3/17			
	3/24			

◆資料2

3年道徳 進捗状況確認シート

学習指導要領との関連		番号	教材名	実施日		担当者		備考
				1組	2組	1組	2組	
自分自身 主として 関すること	自主、自律、自由と責任	8	三年目の「ごめんね」 深めたいむ	/	/			
		18	インターネットの中の社会で	/	/			
			手品師	/	/			
	節度、節制	3	「こち亀」は、四十年間休みなし	/	/			
	向上心、個性の伸長	2	がんばれ おまえ	/	/			
		13	自分を輝かせるには	/	/			
	希望と勇気、克己と強い意志	24	希望のカレンダー	/	/			
		31	私の再出発	/	/			
	真理の探究、創造	28	鉄腕アトムをつくりたいー人工知能研究は人間探究	/	/			
32		「学び」の本質を探ろう	/	/				
人との 主として 関すること	思いやり、感謝	11	言葉が見つからないとき	/	/			
	礼儀	5	礼儀正しさとは	/	/			
	友情、信頼	4	私がピンク色のキャップをかぶるわけ	/	/			
	相互理解、寛容	9	アイツとオレ	/	/			
		27	ソーシャル・ビューー—見えない人と楽しむ美術鑑賞	/	/			
29	恩讐の彼方に	/	/					
主として 関わり する こと	違法精神、公德心	17	漫画泥棒	/	/			
			二通の手紙	/	/			
	公正、公平、社会正義	7	小さな出来事	/	/			
		25	ばくの物語 あなたの物語	/	/			
	26	あってはならない違い	/	/				
	社会参画、公共の精神	22	一票を投じることの意味	/	/			
	勤労	14	働く姿から見えるものは?	/	/			
	家族愛、家庭生活の充実	19	家族って? 家庭って?	/	/			
	よりよい学校生活、集団生活の充実	10	私たちの合唱祭	/	/			
	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	20	好いとっちゃん、博多	/	/			
我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	21	障子あかり	/	/				
国際理解、国際貢献	30	希望の義足	/	/				
主として 関わり する こと	生命の尊さ	6	「リクエスト食」に込められた思い	/	/			
		16	「きみは赤ちゃん」より	/	/			
		33	命と向き合う	/	/			
	自然愛護	12	タコをたどって見えるもの	/	/			
	感動、畏敬の念	15	サグラダ・ファミリア—受け継がれていく思い	/	/			
	よりよく生きる喜び	23	足袋の季節	/	/			
		29	恩讐の彼方に	/	/			
内容項目を限定しない	1	道徳の授業を始めよう	/	/				
	34	一年間の学びを振り返ろう	/	/				

令和7年度 道徳教育全体計画

日本国憲法・教育基本法・学校教育法・学習指導要領
東北町教育委員会の教育目標等

学校の教育目標

○ねばり強く学ぶ生徒
○よりよく行動する生徒
○進んで体を鍛える生徒

・変化の激しい時代を他者と協働して乗り越えていく生徒の育成
・他者に配慮した言動ができず、トラブルになる。
・保護者は「思いやりのある言動ができるようになってほしい」と願っている。
・自他を尊重し、思いやりのある言動ができ、よりよく生きる人になってほしい。

特別活動

○道徳教育実践の基盤は学級にあるという認識のもと、折に触れて道徳教育の実践を図る。集団生活の中で他者とのかかわる力を付け、自発的な態度を養う。

学級活動

○自己の言動を検証し、自己改善を図りながら、役割をまとう態度を養う。

生徒会活動

○自己の言動を検証し、自己改善を図りながら、役割をまとう態度を養う。

学校行事

○集団の一員としての自覚を深め、学校生活の充実と発展に努めようとする態度を育てる。

道徳教育の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方について考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

各教科

○指導内容・方法の改善、充実を図り、生徒一人ひとりの感じ方、考える力の育成に努める。
○生徒一人ひとりの個性、能力に応じた指導の展開に努めるとともに、相互に協力し合い、励まし合う学習態度の育成に努める。
○各教科の指導内容、教材等で、道徳教育に深くかかわるものを通して、道徳性の啓発を行う。
○見学、実験、観察、グループ学習、共同製作などの学習方法や学習形態を通して、道徳性の啓発を行う。
○指導する教師の行動や態度を通して、望ましい人間関係のあり方を感化していく。

道徳教育の重点目標

【思いやり・感謝】

A 自主的に考え行動する態度を養い、自律性を育成する。
B 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場を尊重し、助け合う心を育成する。
C 社会生活を送るうえで人間として持つべき規範意識を身につける。
D 生命の尊さを知り、自他の生命を尊重する心を育成する。

各学年の重点目標			
	第1学年	第2学年	第3学年
A の 視 点	○望ましい生活習慣を身につけることの大切さを自覚し、自らを律し、生活を正す。 【自主、自律、自由と責任】【節度、節制】	○自分が決めた目標をめざし、自分を見つめ、自己の向上を図る。 【向上心、個性の伸長】【希望と勇氣、克己と強い意志】	○より高い目標に向かってねばり強く取り組み、理想の実現をめざす。 【自主、自律、自由と責任】【希望と勇氣、克己と強い意志】
B の 視 点	○相手の立場に立って、お互いのよさを認め、励まし合い、高め合う。 【思いやり、感謝】	○相手の立場に立って、お互いのよさを認め、励まし合い、高め合う。 【思いやり、感謝】【友情、信頼】【相互理解、寛容】	○人間尊重の精神を基盤に、他者に対して思いやりと寛容の心をもって接する。 【思いやり、感謝】【相互理解、寛容】
C の 視 点	○社会連帯の自覚を深め、集団の一員としての役割と責任を果たす。 【遵法精神、公德心】【よりよい学校生活、集団生活の充実】	○社会連帯の自覚を深め、差別や偏見をなくし、よりよい社会の実現をめざす。 【公正、公平、社会正義】【社会参画、公共の精神】	○人間としての最低限の規範意識を身につけ、積極的な社会参画の自覚を深める。 【遵法精神、公德心】【社会参画、公共の精神】【勤労】
D の 視 点	○身近な自然と触れ合い、生命のつながりを自覚して、生命を尊重する心をもつ。 【生命の尊さ】【自然愛護】	○自然の営みに生命を感じ取り、感動や畏怖の念を深める。 【自然愛護】【感動、畏敬の念】	○心の弱さや醜さを克服して、自分に恥じない生き方をする。 【よりよく生きる喜び】

生徒指導

○自己理解を深め、自己実現を図るための能力・態度を高める指導の手だてを工夫する。
○差別や偏見のない、人権尊重の精神の育成に努める。
○学校、家庭、地域が一貫した指導姿勢をもつための方法を探る。

総合的な学習の時間

○課題を見つけ、判断し、解決する能力や態度を育てる。
○学び方や、ものの考え方を身に付け、問題解決や探究活動を通して自己の生き方を考えることができる人間を育成する。

学級経営

・一人ひとりを大切にする学級集団づくりをめざし、人間尊重の精神を深める。
・心の交流を図り、互いに尊重し、認め合う関係づくりに努める。

道徳の時間

生徒が、ねらいとする道徳的価値を自分の課題として受け止め、豊かにいきいきと表現して、豊かな心とたくましい実践力を育む時間をめざす。

・計画的、発展的な指導
・多様な体験活動を効果的に関連させ、生かしていく工夫
・多様な価値観について多角的・多面的な視点から振り返る機会の設定
・学校全体で取り組む指導方法の工夫や発達段階や特性を考慮した多様な指導方法の工夫

教育環境の整備

○生徒の豊かな心を育て、道徳的実践意欲を高めるような環境づくりをする。
・生徒と教師、生徒相互の望ましい人間関係づくり
・校舎や教室環境の整備
・図書館の整備、充実

豊かな体験活動

○全教育活動において、道徳的実践を促したり、道徳的実践力を培ったりするための豊かな体験の場を充実させる。
・人、物、自然とのふれあい
・各教科の学習
・総合的な学習の時間の学習
・道徳の時間の学習
・各行事と関連させた学習

家庭・地域等との連携

○学校、家庭、地域三者の相互理解を深め、交流を密にし、協力体制を整える。
・授業参観、自由参観週間
・地域行事への積極的なかかわり
・通信を活用した道徳の授業や道徳教育に関する諸活動の情報の発信

令和7年度

よりよい生き方を実践する力を育む道德教育の推進事業報告集

令和8年3月

編集・発行 青森県道德教育推進協議会